

Faculty
第一回
FD 研修会
資料集
Development

開催日時：平成 19 年 3 月 14 日
開催場所：本学 534 教室

金沢学院短期大学

第一回金沢学院短期大学 FD 研修会

日時 : 平成 19 年 3 月 14 日〔水〕午後 1 : 3 0 - 4 : 1 5

場所 : 短大 5 3 4 教室

出席者 : 学長、副理事長、短大教職員全員、教務部長、学生部長

1. 学長挨拶 1:30 - 1:35
2. FD 活動と今期本学の FD 部会報告 : 岡島 厚 1:35 - 2:10
3. 学生による授業アンケートの試行 2:10 - 2:55

生活デザイン学科 : 國田 千恵子

食物栄養学科 : 川尻 博男

-----休憩-----15 分-----

4. 卒業生による教育改善アンケートの結果報告 : 小林 淳一 3:10 - 3:40
5. 第三者評価について : 吉田 寛治 3:40 - 4:10
6. 閉会 : 4:10 - 4:15

2. FD活動と今期本学のFD部会報告

岡島 厚

2. FD活動と今期本学の FD部会報告

岡島 厚

ファカルティ・ディベロップメント（FD）とは：

授業内容・方法を改善、向上させるための組織的な取組で、「教職員の資質開発」と訳される。

具体的には

- ① 教員相互の 授業参観
- ② 研究会の開催
- ③ 新任教員のための研修会の開催

などの教員の研修がある。

設置基準の改正により、大学・短大では平成11年から努力義務となっており、大学院では今年4月から義務化される。

平成18年度FD部会－開催経過－

構成委員：岡島（部会長）、國田、河内、小林、相良、川尻

第1回FD部会

開催日：平成18年10月6日（金） 16時40分～18時00分

第2回FD部会

開催日：平成18年11月8日（水） 16時40分～18時00分

第3回FD部会

開催日：平成18年12月6日（水） 16時40分～20時10分

第4回FD部会

開催日：平成19年1月9日（火） 13時00分～14時30分

第5回FD部会

開催日：平成19年2月21日（水） 13時00分～14時30分

第6回FD部会

開催日：平成19年3月7日（水） 13時00分～14時30分

「教育方法の改善」活動の方策について（1/4）

第一回短大FD部会資料 2006.10.6より

1. FD＝教育方法の改善活動の必要性

- i. 社会的要請：短大教育の充実
 - ・ 入学生の能力低下＝初年次教育（導入科目）
 - ・ 新教育理念の制定
 - ・ FDの義務化
 - ・ 厳格な成績評価と単位の実質化の必要性

ii. 入学生の確保

iii. 第三者評価への対応

「教育方法の改善」活動の方策について (2/4)

第一回短大FD部会資料 2006.10.6より

2. 教育方法の改善活動の方策

- (1) 新教育理念のカリキュラムへの具体化
⇒ 創造科目の開設・充実 ▶
- (2) 学生の能力低下 → 初年次教育（導入科目）の充実
.....これから.....
- (3) 各学科・コースにおけるアドミッション・ポリシー
（求める学生像）の制定 ▶
- (4) アドミッション・ポリシーに沿ったカリキュラム体系
への改善
.....これから.....

「教育方法の改善」活動の方策について (3/4)

第一回短大FD部会資料 2006.10.6より

- (5) 学生による授業評価の実施 ▶
⇒ 短大独自のアンケート内容で実施
- (6) 卒業時の学生による授業評価（アウトカムズ）の実施
⇒ 短大独自のアンケート内容で実施 ▶
- (7) FD（Faculty Development）の実施；
大学の理念・目標や教育内容・方法について組織的な研修を実施。 ▶

「教育方法の改善」活動の方策について (4/4)

第一回短大FD部会資料 2006.10.6より

- (8) 厳格な成績評価の実施と単位の実質化 ▶
 - ① 成績指標（GPA）制度の導入
 - ② 授業時間1学期15回の確保.....これから.....
- (9) 第三者評価への対応
.....これから.....

END

短大教育改善の必要性

- ・ 学生の基礎学力の低下：
⇒ 初年次教育（導入科目：学力低下に対処）
- ・ 大学教育の一般化・・・日本の大学生は勉強しない
⇒ 組織的な教育方法改善の必要性
⇒ 新しい学科目の必要性（社会からの要求）
⇒ 「創成」学科目
（教育理念「創造」に合致した教育）
- ・ 教員の意識改革：
⇒ 「教える授業」から「育てる授業」への転換

金沢学院の新しい教育理念

「創造」

実践指標：

- ① ふるさとを愛し、地域社会に貢献する
- ② 良識を培い、礼節を重んずる
- ③ 社会の要請に応え、構想する力、実践する力を育む



文科省、大学教員の研修を義務化「全入時代」へ 指導力向上狙う ① 2007年1月5日

「大学全入時代」を控え、文部科学省は大学の**教員の組織的研修（FD=faculty development）**をすべての大学・短大に**義務づける方針**を固めた。「ゆとり教育」世代など多様な学生を受け入れざるを得ない大学で、教員の指導力を高めるのがねらい。既に努力義務を課しており、**約75%の大学で実施**されているが、**専門スタッフ不足**など問題を抱えており、**義務化**を通じて充実をはかる。

昨年22日から公布・施行した改正教育基本法では、第9条で**教員の「養成と研修の充実」**を新たに明記。中央教育審議会でも大学設置基準の改正を了承した。教員全員が研修を受けた場合は、大学が約16万2000人、短大が約1万2000人（平成17年5月時点）の規模となる。**導入の背景には**、日本

文科省、大学教員の研修を義務化「全入時代」へ 指導力向上狙う ② 2007年1月5日

の大学が教育よりも研究を重視しており、大学教員の教育に関する評価が芳しくない事情がある。教育業界大手のベネッセコーポレーションが17年に実施した調査によると、大学の施設・設備に不満足な学生は27%と少ないのに、**教員に対しては半数弱となる45%が不満を示した**。なかでも**「（学生の）関心に応じた指導」「教員とのコミュニケーションの機会」「授業のわかりやすさ」**に不満が多かった。

さらに、大学全入時代の到来で、基礎学力が身につけていない大学生も続出。高校までの基礎学力を再教育する**「リメディアル教育」**に力を注ぐ大学が相次いでいる事情もある。



文科省、大学教員の研修を義務化「全入時代」へ 指導力向上狙う ③ 2007年1月5日

国立では北海道大、東北大、一橋大、横浜国立大、京都大、神戸大、熊本大などが、**FDに関する「大学教育センター」**を設置し、既に導入している。ただ、国立教育政策研究所の調査によると、大学側が設置する同様のセンターのうち、専任の教職員を置いているのは半数程度にとどまり、専門スタッフの不足が懸念されている。中教審の委員からも**「FDのリーダーとなる人材がない」「個々の大学での努力では限界がある」と財政支援を求める声がある**。

このため、文科省では国立大学を中心に設置されている同様のセンターをFDの拠点として積極的に支援していくことを今後、検討する考えだ。



「特色ある GP」は、・・・

〔目的〕「特色ある大学教育支援プログラム」は、大学教育の改善・充実の観点から、学位を与える課程に応じ、

今年度追加された事柄

教養教育や初年次教育の展開、FD活動の充実などを含め、

教育内容・方法等の高度化・豊富化に資する特色ある優れた取組を選定し、選定された取組を広く社会に情報提供することや財政支援を行うことにより、大学教育の改善を図るとともに、高等教育の活性化を促進することを目的とします。

大学における教育内容等の改革状況について

平成18年6月6日

[ダウンロード/印刷用 (PDF: 396KB)]

文部科学省高等教育局大学振興課

<概要>

1. カリキュラム改革の実施状況

- ① 過去4年間（平成13年度～平成16年度）において、全体の約8割の大学の559大学（約80%）、1,370学部（約75%）が、科目区分や必修・選択科目の見直しなど、カリキュラム改革を実施。
- ② ボランティア活動を取り入れた授業科目の実施状況：
228大学（約33%：平成15年度）から255大学（約37%：平成16年度）へ

 Kanazawa Gakuin College

大学における教育内容等の改革状況について： 平成18年6月6日

2. 授業の質を高めるための具体的な取組状況

- ① 学生による授業評価の実施状況
633大学（約91%：平成15年度）から 691大学（約97%：平成16年度）へ
- ② 履修科目登録の上限設定（キャップ制）の実施状況
399大学（約58%：平成15年度）から 429大学（約62%：平成16年度）へ
- ③ 厳格な成績評価（GPA制度）の導入状況
学部 163大学（約24%：平成15年度）から 195大学（約28%：平成16年度）へ
- ④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況
482大学（約69%：平成15年度）から 534大学（約75%：平成16年度）へ

 Kanazawa Gakuin College



創造教育科目の開設・充実 12/27/2006

平成19年度新カリキュラム

【コース共通専門科目】

科目名：ドローイング → デザイン創造実習

履修：1年（後期）選択2単位（実習）

科目名：デザイン論 → デザイン創造論

履修：1年（後期）選択2単位（講義）

【専門科目】

科目名：デザイン実習Ⅰ → 創造と造形研究Ⅰ

履修：2年（前期）必修1単位（実習）

科目名：デザイン実習Ⅱ → 創造と造形研究Ⅱ

履修：2年（後期）必修1単位（実習）

 Kanazawa Gakuin College



短期大学のアドミッションポリシー 2007.1.15

○生活デザイン学科のアドミッションポリシー

生活デザイン学科では、生活文化に関心を持ち、「ふるさと文化」「ビジネス文化」「カラー&ビジュアルデザイン」「アパレル&ファッションデザイン」「スペース&インテリアデザイン」の中から「好き」「興味ある」ことを見つけ、学び、伸ばし、深めたいと思っている人を歓迎します。そして、それぞれの分野で得意な技を身につけ、磨き、自らデザインした生き方で社会に貢献することを旨とする人を応援します。

○食物栄養学科のアドミッションポリシー

食物栄養学科は、将来、栄養士さらに管理栄養士として活躍する栄養と健康のスペシャリストを養成します。好奇心にあふれ、食べものと健康に関心のある人、そしてバランスのとれたおいしい食事を科学的に創造し、食を通して国民の健康増進にたずさわる人を求めています。

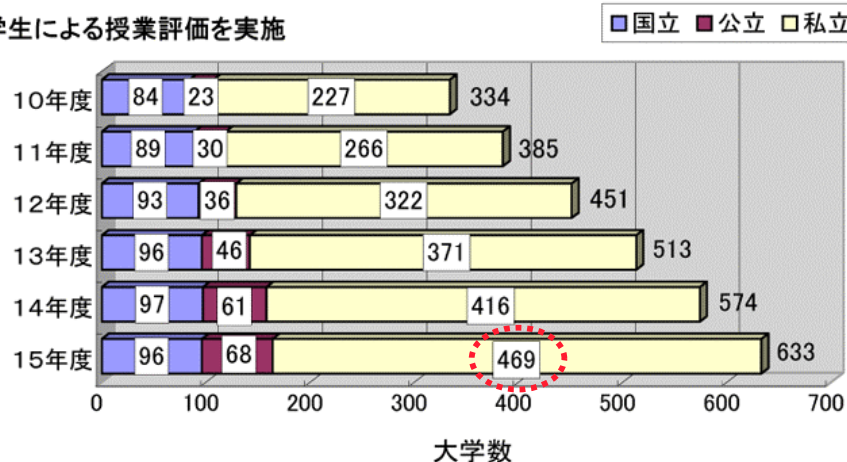
授業評価アンケートの目的

教官と学生が一緒になって共に授業の改善を行うために、学生による授業評価アンケートを行う。

すなわち、学生による授業評価アンケートは、授業に対する学生の理解度や満足度を知ることによって授業の内容や教授法の改善に役立てようとするものである。 ⇒ 授業効果調査【絹川(ICU)】
従って、学生には、この授業評価の意義を理解するように、予め十分な説明等が必要である。

学生による授業評価の実施状況

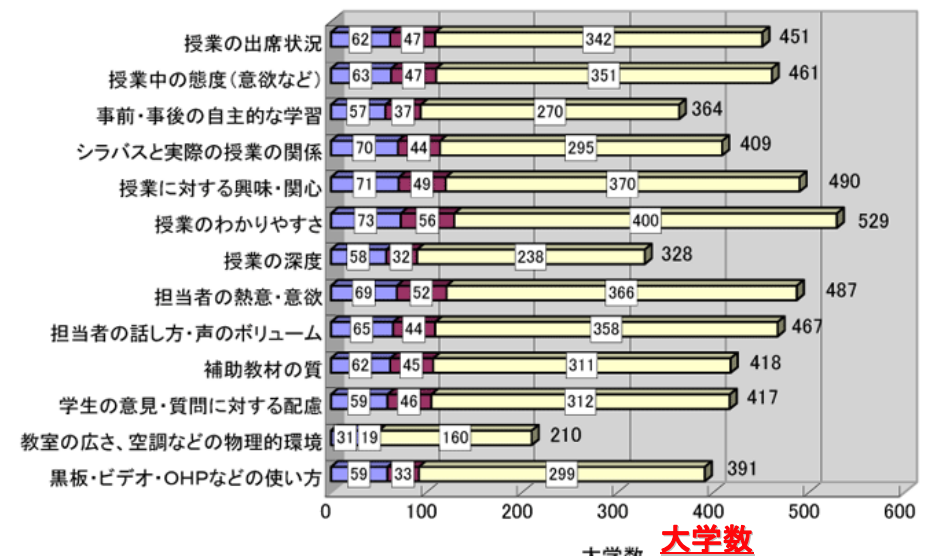
学生による授業評価を実施



平成15年度までに、国立96大学(約99%)、公立68大学(約89%)、**私立469大学(約89%)**、国公立全体で633大学(約91%)において、学生による授業評価を実施している。

授業評価における評価項目

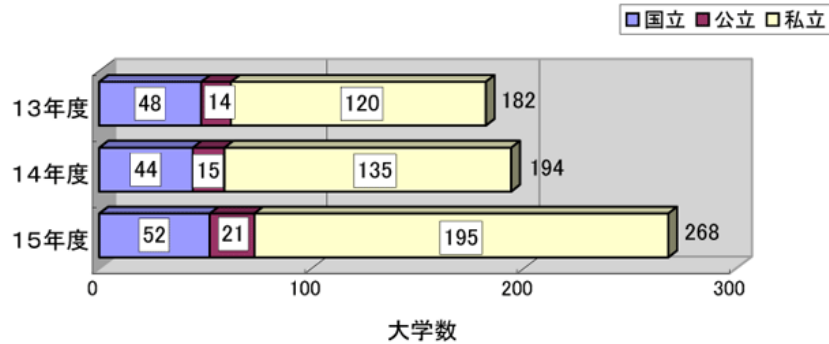
文科省「大学における教育内容等の改革状況について」より
評価項目にしている大学数



学生による授業評価の結果を改革に反映させる組織的な取り組み

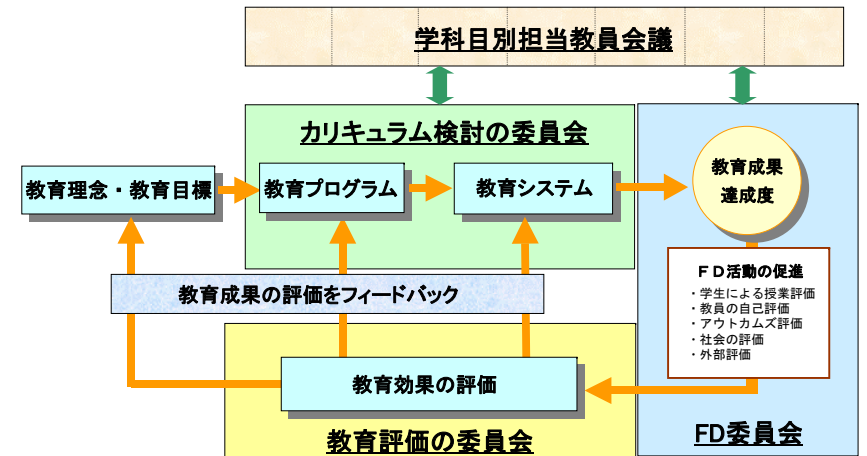
平成15年度までに学生による授業評価を実施した大学のうち、**授業評価の結果を改革に反映するための組織的取り組み**が行われていると答えたのは、国立52大学(約54%)、公立21大学(28%)、私立195大学(約37%)、国公立全体で268大学(約38%)となっている。

学生による授業評価の結果を改革に反映させる組織的な取組



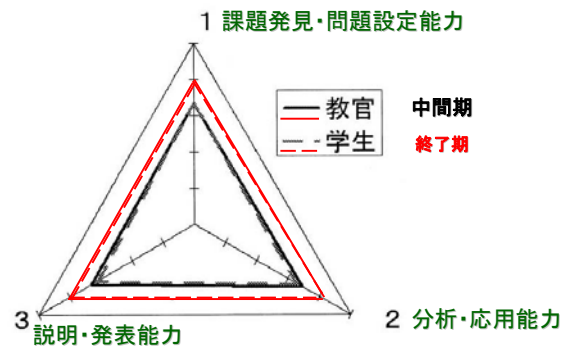
短大のあるべき教育改善システム

(先ず、授業評価を公正厳格に実施するシステムが必要)



組織として授業改善のための授業評価の整理の例1

創成型科目(3年前期)の達成度判定の例 2001.9.18



中間期評価と終了期評価(平均値)

組織として授業改善のための授業評価の整理の例2

創成科目・卒業研究の達成度判定の例

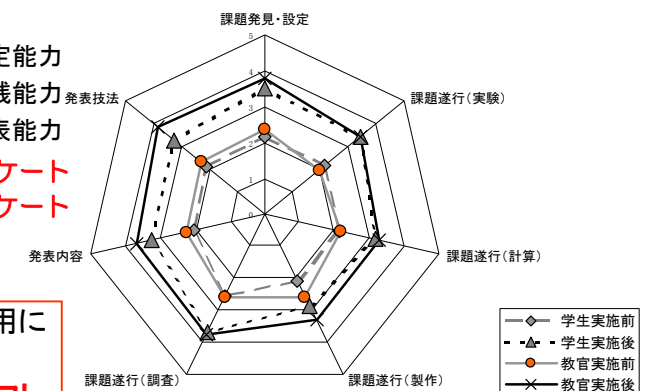
ゼミナールの達成度判定例(3年後期必修)

達成目標の設定

- 1) 課題発見・設定能力
- 2) 課題遂行・実践能力
- 3) 説明能力, 発表能力

学生による評価アンケート
教官の自己診断アンケート
同時に実施

卒業研究への適用に向けて
集計の自動化ソフト



教官28名, 学生84名の平均値

「学生による授業評価をどう見るか」

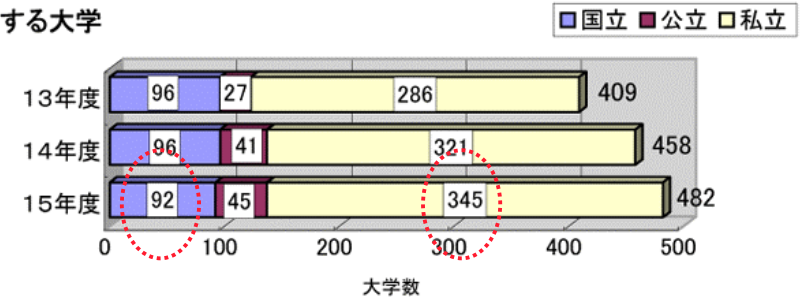
1. 学生による授業評価を全能とする考えは、楽天的過ぎる。
2. 絹川(1997)は、「良い」授業が**類型化**する危険を指摘している。
3. 授業内容の適切さや、教員の知識と専門性のレベルについて、**学生にコメントさせてはならない**と警告している(絹川,1992)。
4. **圧倒的に長い経験を有する教員が「創造」授業を、全く経験に乏しい学生が評価を下す行為**については、一面的に判断を下すのではなく、複眼的な配慮が不可欠である。
5. 学生による授業評価 ⇒ 「**授業効果の調査**」(絹川, 2002)

「学生による授業評価をどう見るか」渡辺勇一(新潟大学理学部生物学科),生物科学52-4(2001.4.)



FDを実施している大学

FDを実施する大学

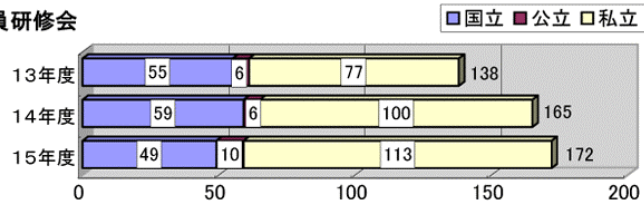


ファカルティ・ディベロップメントを実施している大学は、年々増加しており、平成15年度現在、**482大学(約69%)**の大学が実施している。

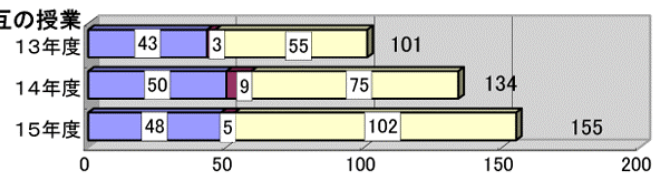


<ファカルティ・ディベロップメントの実施状況>

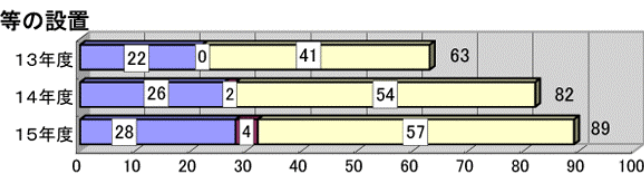
新任教員研修会



教員相互の授業参観



センター等の設置

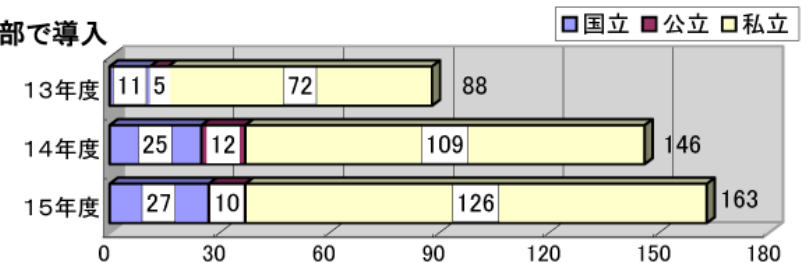


厳格な成績評価の実施

シラバス等で授業方法・計画とともに成績評価基準を明示した上で、厳格な成績評価を行うことが求められているが、例えば、現在米国において一般に行われている成績評価方法である「GPA制度」を導入している大学も見られる。

GPAの導入状況(大学数)

学部で導入



GPA (Grade Point Average) とは？

GPA (Grade Point **Average**)=

$$\frac{[a科目の成績 \times 単位数] + (b科目の \dots) + (c \dots) + \dots}{\text{総単位数 (申請全科目)}}$$

総単位数 (申請全科目)

- (A) ⇒ 4ポイント
- (B) ⇒ 3ポイント
- (C) ⇒ 2ポイント
- (D) ⇒ 1ポイント
- (E) ⇒ 0ポイント

- ①5段階方式
- ②申請全科目を対象とする
そのために、試し期間がある。
- ③国際性・全国どこでも通ずる
評価値である。

90~100点=4、80~89点=3、70~79点=2、60~69点=1、60点未満=0と設定する。

退学勧告基準、卒業研究登録基準、学習奨励金基準、教育実習登録基準、学長賞及び成績優秀賞基準、履修単位上限基準、奨学金推薦基準に用いている。



金沢学院の学業成績評価の方法

(1) 評価値の計算

成績評価に対する重み、評価別科目数を以下のとおりとすると、数値の計算は表1のとおりとなる。

- ア) 成績評価に対する重み
- 優の重み.....A
 - 良の重み.....B
 - 可の重み.....C
 - 認定の重み.....N

- イ) 評価別科目数
- 優の科目数.....Na
 - 良の科目数.....Nb
 - 可の科目数.....Nc
 - 認定の科目数.....Nn

$$N_a + N_b + N_c + N_n = \text{総科目数} \dots\dots N_o$$

$$\text{評価値} = \frac{A \times N_a + B \times N_b + C \times N_c + N \times N_n}{N_o} \times \sqrt{N_o}$$

(小数点第2位四捨五入)



(6) 学業成績順位表

この表を作成するためには、成績順位を決めるルールを確立する必要がある。

- ① 成績評価の基準
 - ・ 現行通り (A、B、C、D、E)
 - ・ 累点で報告し、コンピュータでA、B、C、Dを判定する
- ② 成績順位の判定
 - ・ A、B、Cに、夫々の評点を掛け、その合計値または平均値で判定する。
 - ・ 全科目の累点の合計値または平均値で判定する。
 - ・ 平均値 × √科目数 で判定する。

(注) 上記の方法の説明

例えば、 A = 60点、 B = 40点、 C = 20点
 n_a : Aの科目数、 n_b : Bの科目数、 n_c : Cの科目数
 総科目数 $n_o = n_a + n_b + n_c$ とする

$$\text{評価値 } K = \frac{60 \times n_a + 40 \times n_b + 20 \times n_c}{\sqrt{n_o}}$$

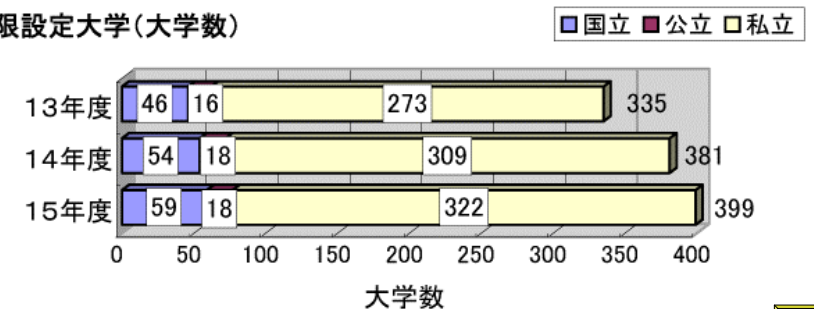
$$= \frac{60 \times n_a + 40 \times n_b + 20 \times n_c}{n_o} \times \sqrt{n_o}$$

この評価値 K により、成績順位をつける。

単位の上限設定 (CAP制)

単位の過剰登録を防ぐため、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設けている(いわゆる「キャップ制」) 大学は年々増加しており、平成15年度現在、国公立399大学(約58%)が履修科目登録の上限を設けている。

単位上限設定大学(大学数)



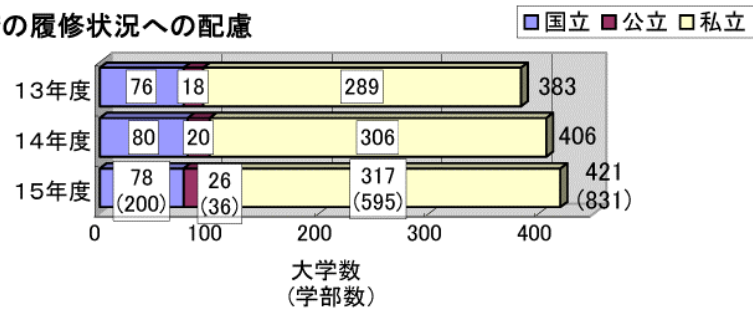
今後、GPA成績評価制を採用するか？



高等学校での履修状況への配慮

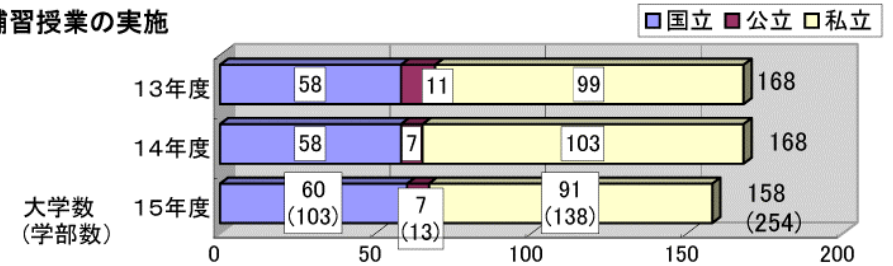
高等学校での履修の多様化に伴い、補習授業の実施など高等学校の履修状況に配慮した取組を行う大学も年々増加しており、平成15年度においては、国公立421大学（約61%）、831学部（約47%）が実施している。

高等学校での履修状況への配慮

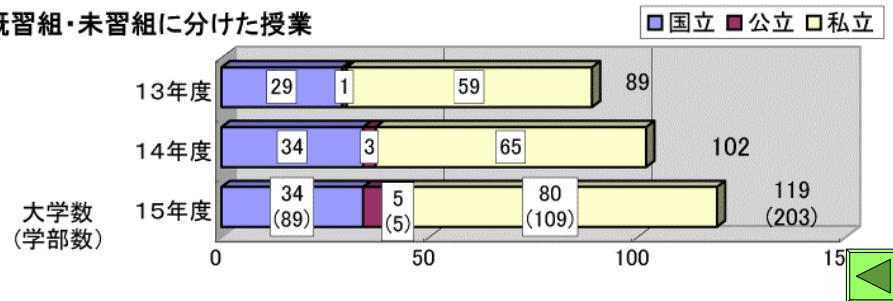


配慮の内容の例（大学数・学部数）

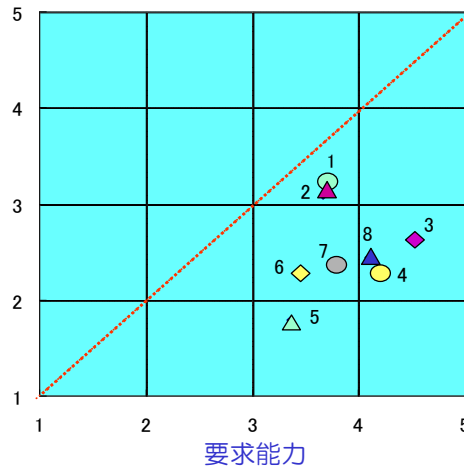
補習授業の実施



既習組・未習組に分けた授業



大学で備わった能力



- 1.自然科学と工学の基礎知識
- ▲ 2.実験を通して科学的に分析・理解能力
- ◆ 3.課題の提案・報告の記述と説明能力
- 4.異分野技術者との協調性・指導力
- △ 5.国際的コミュニケーション能力
- ◇ 6.専門分野の基本的スキル
- 7.最新の工学ツールを使う基礎能力
- ▲ 8.設計・計画の創造的能力

総合評価の分析(金沢大学工学部の場合)

全体にどの要求能力も教育が不十分であり、特に「3.課題の提案・報告の記述と説明能力」、「4.異分野技術者との協調性・指導力」、「5.国際的コミュニケーション能力」の要求能力が全体平均より高く、それに対する教育が不十分であることが判明した。

授業のビデオ撮り

1. 目的

教官が自分自身で講義風景をビデオ撮り、教授技法の自己診断・改善の手段。

2. ビデオ設備の設置

- 1) 固定式ビデオカメラ（自動追尾）を3教室に設置
- 2) 可搬式デジタル・ビデオ・カメラを学務係に常備して貸出し

3. 運用

学科ごとの強化月間を設けて1, 2回/教官を呼びかけ、教官から52通の実施報告書
・平成14年度前期は、全科目の実施を目指す。

○効果・問題点について:

細かい教授技法の改善に寄与。過度の余分な労力が必要

教育と研究への関心度

○カーネギー教育振興財団(1992年)の調査(安岡ら(1999))

「研究:教育」の関心比率

・日本の教員の場合……研究72/教育28

・世界14ヶ国における大学教員の平均…… 56/ 44

○「研究:教育」の意識調査(片岡と喜多村(1989)):

「大学教員が研究者であると考えてる者」の比率:

国立・私立を問わず:7割程度

国立では: 81%

米国大学教員の教育重視教員: 7、8割

「学生による授業評価をどう見るか」,渡辺勇一(新潟大理学部・生物),生物科学52-4(2001.4.1)



Faculty
END
Development

3-1. **学生による授業アンケートの試行**
- 生活デザイン学科 -

國田 千恵子

「授業改善のための 学生アンケート」を試行して

報告内容

1. 「授業改善のための学生アンケート」
作成過程と実施方法
2. アンケート集計結果のフィードバックに
ついてと「生活デザイン学科」における
結果

1-1. 「授業改善のための学生ア ンケート」

の作成にあたって

金沢学院大学の「授業改善アンケート」を
基に作成。

FD部会において、短期大学の授業内容や
学生の現状を考慮し、質問項目を検討。

大学と共通の項目は、学生の授業理解、
満足度(大学では、総合的に判断しての授
業評価)に関する質問。以下の10項目。

(アンケート質問項目番号:

1、2、3、4、5、6、12、13、14、15)

授業改善のための学生アンケート

(実施日:平成 年 月 日)

| | |
|-------|--|
| 授業科目名 | |
| 教員氏名 | |

実施の際、教員が科目名
と氏名を板書

教示文から
読み上げる。

このアンケートは、学生の皆さんが受講した授業科目を今後より一層充実させるため、実施するもの
です。成績評価とは全く関係ありません。率直かつ真剣にお答えください。

あなたについて、お尋ねします。当てはまる箇所を○で囲み、クラス・名列表番号を記入してください。

| | | | |
|-------|---|-------|--------------------|
| 学 科 | 生活デザイン学科 食物栄養学科 | コ ー ス | 生活文化コース デザインコース |
| 学 年 | 1年 2年 | ク ラ ス | |
| 名列表番号 | | 性 別 | 男 女 |
| 受講態度 | 非常によい まあまあよい 普 通 やや悪い 非常に悪い | | |
| 欠席回数 | 0 回 1 回 2 回 3 回 4 回以上 | | |

授業について、お尋ねします。以下の各項目に対して、あなたはどのように思ったり、感じたりしましたか、各項目について、当てはまる番号を1つ選び、マーク(ぬりつぶ)してください。

1. 先生の声は聞こえますか。

| | | | | |
|-------------|------------|-----------|----------|--------|
| ほとんど聞こえなかった | あまり聞こえなかった | どちらともいえない | まあまあ聞こえた | よく聞こえた |
|-------------|------------|-----------|----------|--------|

2. 板書の文字・図は見やすいですか。

| | | | | |
|------|--------|-----------|----------|------|
| 見にくい | 少し見にくい | どちらともいえない | まあまあ見やすい | 見やすい |
|------|--------|-----------|----------|------|

3. ノートをとる時間はありましたか。

| | | | | |
|--------|-------|-----------|---------|--------|
| ほとんどない | あまりない | どちらともいえない | まあまああった | 十分にあった |
|--------|-------|-----------|---------|--------|

4. 教科書・参考書・配付資料などは、活用されていますか。

| | | | | |
|--------------|-------------|-----------|-------------|------------|
| ほとんど活用されていない | あまり活用されていない | どちらともいえない | まあまあ活用されている | 十分に活用されている |
|--------------|-------------|-----------|-------------|------------|

5. プリント、ビデオ教材、プロジェクター画面などは見やすいですか。

| | | | | |
|------|--------|-----------|----------|------|
| 見にくい | 少し見にくい | どちらともいえない | まあまあ見やすい | 見やすい |
|------|--------|-----------|----------|------|

6. 授業中や授業後、質問や発言がしやすい雰囲気でしたが、

| | | | | |
|------|---------|-----------|----------|------|
| 思わない | あまり思わない | どちらともいえない | まあまあそう思う | そう思う |
|------|---------|-----------|----------|------|

若干、付け加えた箇所もあるが、基本的には大学と同じ項目。

5

12. あなたにとって、この授業は理解できましたか。

| | | | | |
|------------|------------|-----------|-----------|-----------|
| 全く理解できなかった | 少ししかできなかった | どちらともいえない | まあまあ理解できた | 大変よく理解できた |
|------------|------------|-----------|-----------|-----------|

13. 【12の質問で「全く理解できなかった」または「少ししか理解できなかった」に、マークをした人だけ答えてください。】
理解できなかった理由は何ですか。当てはまる番号をマーク(ぬりつぶ)してください。(複数回答可)
授業内容そのものに興味がなかった
将来役に立つとは思えなかったため、興味がなかった
量が多かった
内容が難しかった
進み方がはやかった
自分の基礎知識がなかった
自分が勉強不足だった
教室が騒がしくて集中できなかった
人数が多すぎて集中できなかった
その他 マークしたあと、理由を下に書いてください。

()

14. 総合的に判断して、あなたはこの授業に満足していますか。

| | | | | |
|----------|----------|-----------|------------|----------|
| 全く不満足である | 少し不満足である | どちらともいえない | まあまあ満足している | 大変満足している |
|----------|----------|-----------|------------|----------|

15. この授業について意見があれば、自由に記入してください。

大学とほぼ同じ項目

6

授業の雰囲気や学習態度など、短大独自の質問を、5項目取り入れた。
(アンケート質問項目番号：7、8、9、10-1、10-2、11)

シラバスと新学生証については、「教育改善に向けた卒業生アンケート」に入れることとした。

7

7. この授業から、あなたの勉強意欲を高められましたか。

| | | | | |
|----------|-------------|-----------|-----------|-------|
| 高められなかった | あまり高められなかった | どちらともいえない | まあまあ高められた | 高められた |
|----------|-------------|-----------|-----------|-------|

8. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。

| | | | | |
|----------|-------------|-----------|-----------|-------|
| 感じられなかった | あまり感じられなかった | どちらともいえない | まあまあ感じられた | 感じられた |
|----------|-------------|-----------|-----------|-------|

9. この授業を受けている学生の受講態度は、あなたから見てどうでしたか。

| | | | | |
|--------|-----------|-----------|----------|------|
| 良くなかった | あまり良くなかった | どちらともいえない | まあまあ良かった | 良かった |
|--------|-----------|-----------|----------|------|

10-1. 授業妨害(遅刻・私語・携帯操作を始め、授業以外のことなど)をする学生は、いましたか。

| | | |
|--------|------|-------|
| たくさんいた | 少しいた | いなかった |
|--------|------|-------|

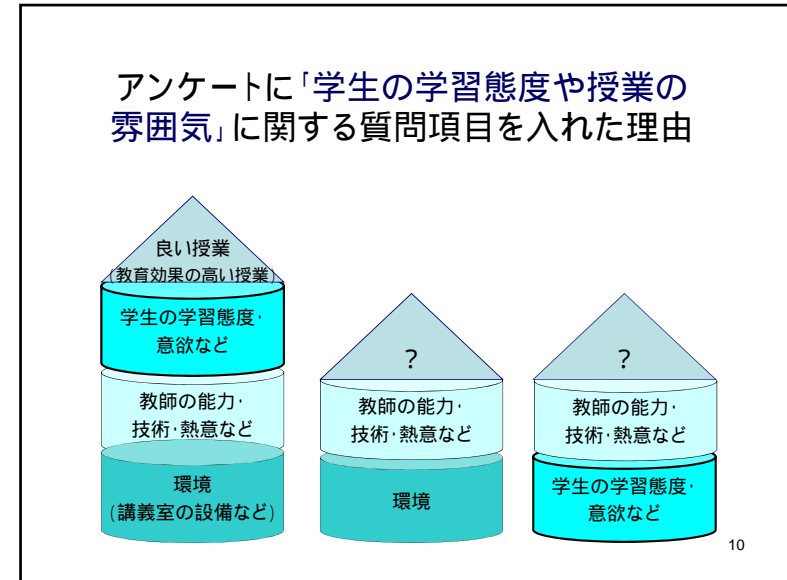
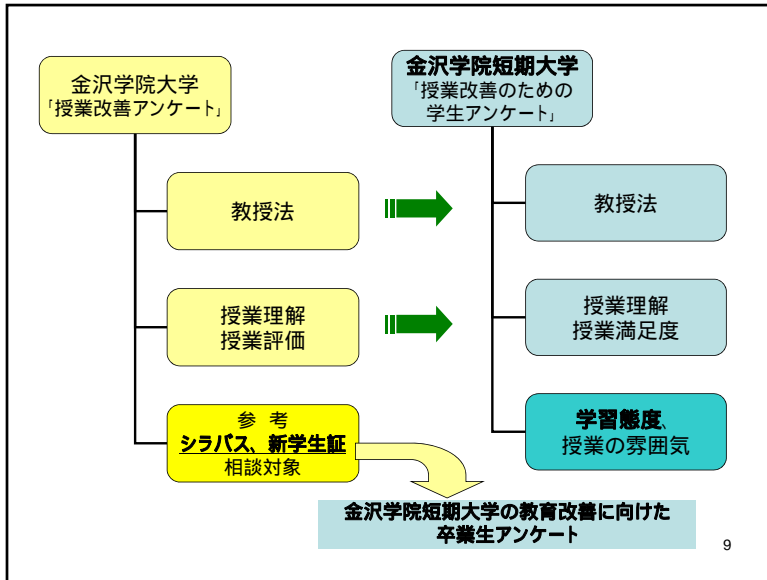
10-2. 【10-1で「たくさんいた」または「少しいた」に、マークをした人だけ答えてください。】
授業妨害をする学生に対して、適切な対応はなされていたか。

| | | | | |
|--------------|----------------|-----------|----------------|------------|
| 適切な対応はされなかった | あまり適切に対応されなかった | どちらともいえない | まあまあ適切に対応されていた | 適切に対応されていた |
|--------------|----------------|-----------|----------------|------------|

11. あなたは、授業中以外の時間(休憩時間や帰宅後)に、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。

| | | | | |
|---------|------------|-----------|----------|------|
| 勉強しなかった | あまり勉強しなかった | どちらともいえない | まあまあ勉強した | 勉強した |
|---------|------------|-----------|----------|------|

8



1-2. 「授業改善のための学生アンケート」
の実施方法

調査対象:
生活デザイン学科 1・2年 (回答数150)

実施期間:
1月22日～2月3日

実施方法:
(1)実施・回収: 授業担当者が行った。
(2)授業科目名及び教員名を板書した。
(3)授業担当者が質問項目を読みあげ、進めた。
(4)質問項目の「受講態度」及び「欠席回数」の
記入にあたっては、学生自身の判断に任せた。

11

2. アンケート集計結果のフィードバックについて
と「生活デザイン学科」の結果

平成19年度より、全授業科目についてアンケートを実施。
教員各自には、短大全体での集計結果と担当
科目について、以下のようにグラフ化され、
フィードバックの予定。
今回は、生活デザイン学科の1年次授業4科
について集計結果をグラフ化し、教員にフィードバックした。

科目名: 担当教官:

性別

態度

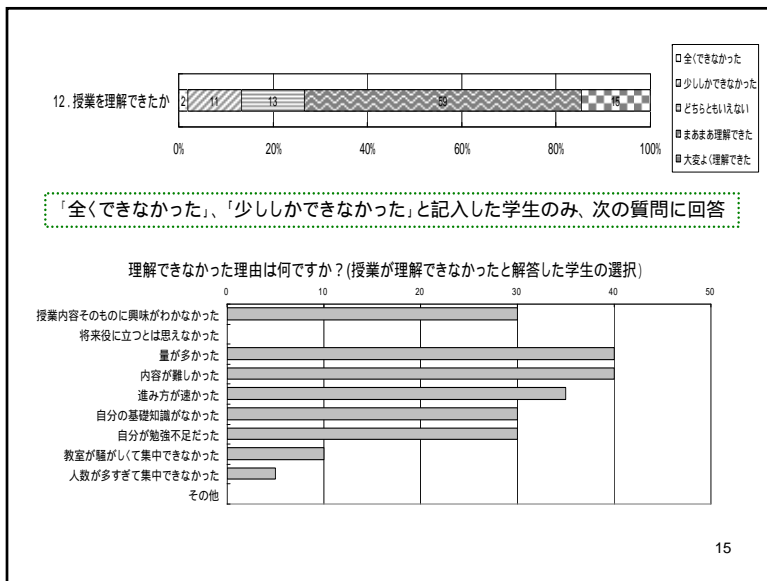
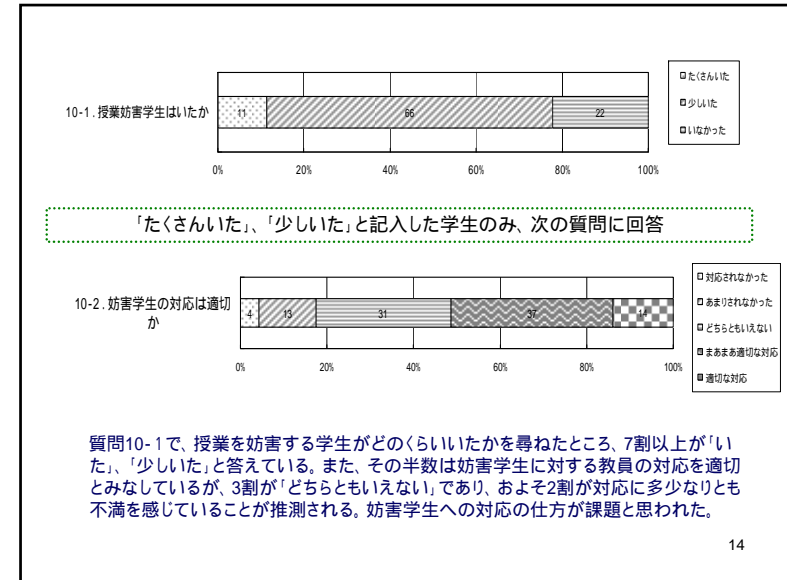
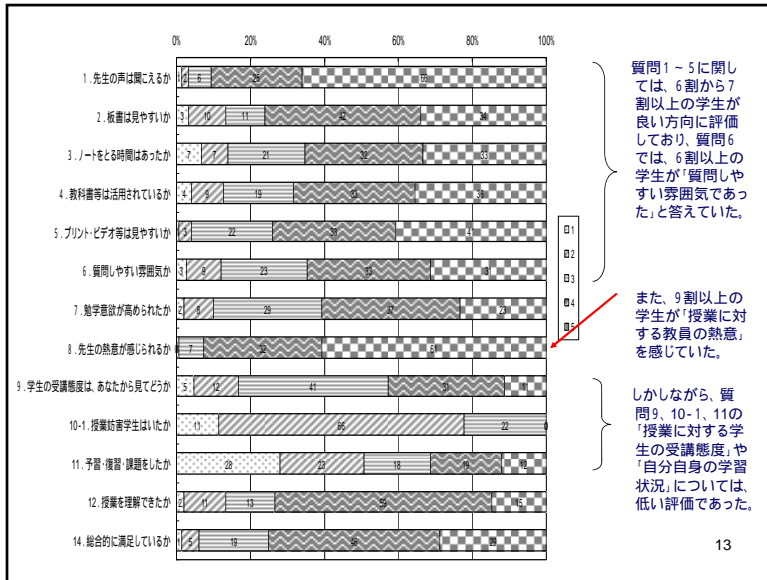
欠席回数

0% 20% 40% 60% 80% 100%

D1
D2
D3
D4
D5

欠席3回以上が4割以上

12



最後に

「授業改善のための学生アンケート」の質問項目については、検討が必要。

実施方法・期間等についても、考える必要がある。

「授業改善アンケート」が、教員評価のためにあるのではなく、教育効果を高めるための資料であること。

また、それを教員と学生の双方が認識しなければならぬと感じた。

16

授業改善のための学生アンケート

(実施日:平成 年 月 日)

| | |
|-------|--|
| 授業科目名 | |
| 教員氏名 | |

このアンケートは、学生の皆さんが受講した授業科目を今後より一層充実させるため、実施するものです。成績評価とは全く関係ありません。率直かつ真剣にお答えください。

・あなたについて、お尋ねします。当てはまる箇所を○で囲み、クラス・名列番号を記入してください。

| 学 科 | 生活デザイン学科 食物栄養学科 | コ ー ス | 生活文化コース デザインコース | |
|------|---|-------|--------------------|-------------------------|
| | 1年 ・ 2年 | | クラス | |
| 学 年 | | | 性 別 | 男 ・ 女 |
| 名列番号 | | | | |
| 受講態度 | 非常によい ・ まあまあ良い ・ 普通 ・ やや悪い ・ 非常に悪い | | | |
| 欠席回数 | 0 回 ・ 1 回 ・ 2 回 ・ 3 回 ・ 4 回以上 | | | |

・授業について、お尋ねします。以下の各項目に対して、あなたはどのように思ったり、感じたりしましたか。各項目について、当てはまる番号を1つ選び、マーク(ぬりつぶ)してください。

1. 先生の声は聞こえますか。

ほとんど あまり まあまあ 聞こえなかった 聞こえなかった どちらともいえない 聞こえた よく聞こえた

2. 板書の文字・図は見やすいですか。

見にくい 少し まあまあ 見にくい どちらともいえない 見やすい 見やすい

3. ノートをとる時間はありましたか。

ほとんどない あまりない どちらともいえない まあまあ あった 十分にあった

4. 教科書・参考書・配付資料などは、活用されていますか。

ほとんど あまり まあまあ 十分に 活用されていない 活用されていない どちらともいえない 活用されている 活用されている

5. プリント、ビデオ教材、プロジェクター画面などは見やすいですか。

| | | | | |
|------|------------|-----------|--------------|------|
| 見にくい | 少し 見にくい | どちらともいえない | まあまあ 見やすい | 見やすい |
|------|------------|-----------|--------------|------|

6. 授業中や授業後、質問や発言がしやすい雰囲気でしたか。

| | | | | |
|------|-------------|-----------|--------------|------|
| 思わない | あまり 思わない | どちらともいえない | まあまあ そう思う | そう思う |
|------|-------------|-----------|--------------|------|

7. この授業から、あなたの勉学意欲を高められましたか。

| | | | | |
|----------|-----------------|-----------|---------------|-------|
| 高められなかった | あまり 高められなかった | どちらともいえない | まあまあ 高められた | 高められた |
|----------|-----------------|-----------|---------------|-------|

8. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。

| | | | | |
|----------|-----------------|-----------|---------------|-------|
| 感じられなかった | あまり 感じられなかった | どちらともいえない | まあまあ 感じられた | 感じられた |
|----------|-----------------|-----------|---------------|-------|

9. この授業を受けている学生の受講態度は、あなたから見てどうでしたか。

| | | | | |
|--------|---------------|-----------|--------------|------|
| 良くなかった | あまり 良くなかった | どちらともいえない | まあまあ 良かった | 良かった |
|--------|---------------|-----------|--------------|------|

10 - 1. 授業妨害(遅刻・私語・携帯操作を始め、授業以外のことなど)をする学生は、いましたか。

| | | |
|--------|------|-------|
| たくさんいた | 少しいた | いなかった |
|--------|------|-------|

10 - 2. 【 10 - 1で 「たくさんいた」または 「少しいた」に、マークをした人だけ答えてください。】

授業妨害をする学生に対して、適切な対応はなされていましたか。

| | | | | |
|------------------|--------------------|-----------|--------------------|----------------|
| 適切な 対応はされなかった | あまり適切に 対応されなかった | どちらともいえない | まあまあ適切に 対応されていた | 適切に 対応されていた |
|------------------|--------------------|-----------|--------------------|----------------|

3-2. **学生による授業アンケートの試行**
- 食物栄養学科 -

川尻 博男

授業評価アンケートの実際

アンケート処理の流れ

- 全授業でアンケートをとる(マークシート)
- 科目ごとの集計
→担当教員へのフィードバック
- 学科ごとの集計
→学科へのフィードバック
- 短大全体の集計
→短大へのフィードバック

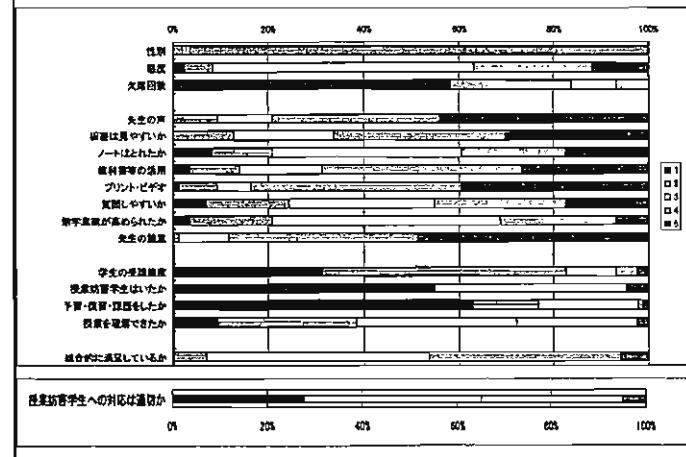
科目ごとの集計と 教員へのフィードバックの例

調査科目

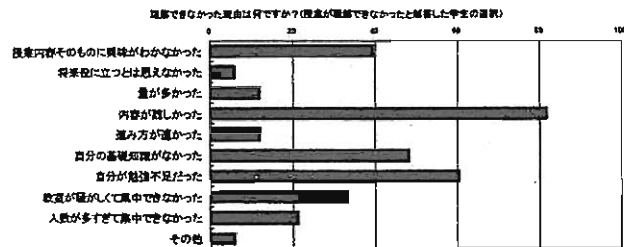
ー病理学 食物栄養学科 2年生
アンケートに答えた学生 86名

ー給食経営管理論 食物栄養学科 1年生
アンケートに答えた学生 91名

病理学: ×××× 食物栄養 学年:2 クラス:AB 回答数:86



理解できなかった理由は何ですか？(授業が理解できなかったと解答した学生の選択)



様々なコメント1

• 授業内容に対する感想

- 写真をたくさん見れて、いろんな病気があるんだなど興味を持って授業を受けることができました。内容は難しいけど、先生の説明はわかりやすかったと思います。
- 栄養士の仕事の大変さを授業で実感した
- 授業内容は非常に興味が持て楽しく学べた。進むのが早くて困る時があった。

様々なコメント2

• 授業の方法に対する要望

- 板書があった方が手が動いていて良かったかなーと思います。
- 重要そうな所はノートにうつしたいので、もう少しゆっくり授業(スライド)を進めてほしい。
- 生徒の進み方を見て授業を進めてほしい。
- マイクを活用してほしい。

様々なコメント3

• 授業妨害の学生についてのコメント

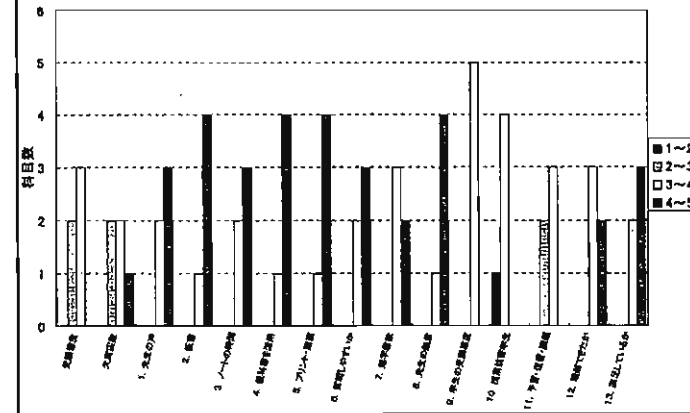
- 半数はうるさい人たちでした
- 席が自由なのでみなしゃべる
- 広い教室でやらない方がいい
- 授業妨害に対して対策が甘いというコメント
 - 先生がやさすぎる！あと教室の場所がわるい笑

学科単位、短大全体での集計

- 学科ごとに集計を行う。
 - 食物栄養学科
 - 生活デザイン学科
- 短大全体の集計を行う
- 今回は試行ケースとして、両学科でアンケートを行った10科目、337アンケートについて集計した

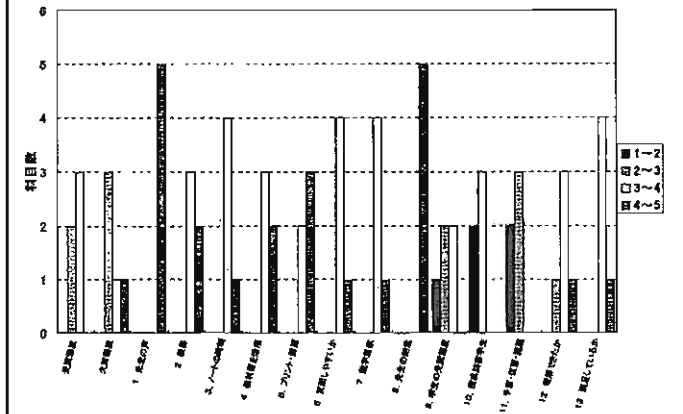
短大全体の集計:1年生

設問ごとに、各ポイントを獲得した科目数の分布(1年生:科目数5)



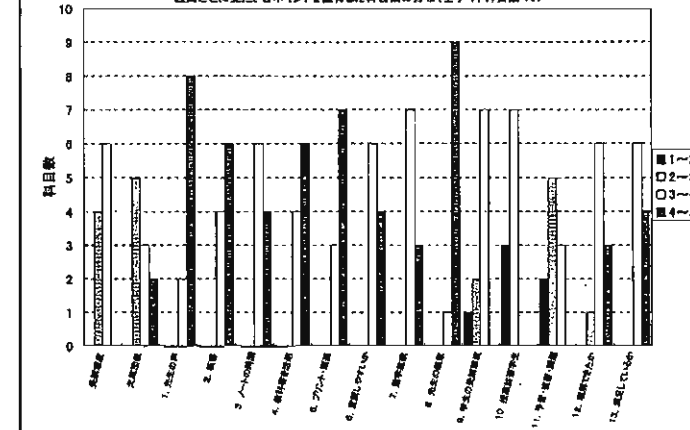
短大全体の集計:2年生

設問ごとに、各ポイントを獲得した科目数の分布(2年生:科目数5)



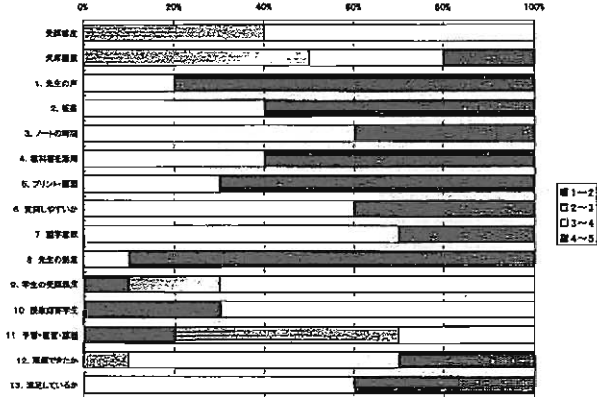
短大全体の集計:全学年

設問ごとに、各ポイントを獲得した科目数の分布(全学年:科目数10)



短大全体の集計4(学年別は省略)

設問ごとに、各ポイントを獲得した科目数の割合(全学年、科目数 10)



1年生

各ポイントを獲得した科目数

科目数

5

| | ポイント範囲 | | | | 平均 |
|--------------|--------|-----|-----|-----|------|
| | 1~2 | 2~3 | 3~4 | 4~5 | |
| 受講態度 | 0 | 2 | 3 | 0 | 3.52 |
| 欠席回数 | 0 | 2 | 2 | 1 | 4.09 |
| 1. 先生の声 | 0 | 0 | 2 | 3 | 3.89 |
| 2. 板書 | 0 | 0 | 1 | 4 | 3.59 |
| 3. ノートの時間 | 0 | 0 | 2 | 3 | 3.57 |
| 4. 教科書を活用 | 0 | 0 | 1 | 4 | 4.10 |
| 5. プリント・画面 | 0 | 0 | 1 | 4 | 4.01 |
| 6. 質問しやすいか | 0 | 0 | 2 | 3 | 3.90 |
| 7. 勉学意欲 | 0 | 0 | 3 | 2 | 3.88 |
| 8. 先生の熱意 | 0 | 0 | 1 | 4 | 4.30 |
| 9. 学生の受講態度 | 0 | 0 | 5 | 0 | 3.43 |
| 10. 授業妨害学生 | 1 | 4 | 0 | 0 | 2.41 |
| 11. 予習・復習・課題 | 0 | 2 | 3 | 0 | 3.31 |
| 12. 理解できたか | 0 | 0 | 3 | 2 | 3.76 |
| 13. 満足しているか | 0 | 0 | 2 | 3 | 3.92 |

2年生

各ポイントを獲得した科目数

科目数

5

| | ポイント範囲 | | | | 平均 |
|--------------|--------|-----|-----|-----|------|
| | 1~2 | 2~3 | 3~4 | 4~5 | |
| 受講態度 | 0 | 2 | 3 | 0 | 2.67 |
| 欠席回数 | 0 | 3 | 1 | 1 | 3.31 |
| 1. 先生の声 | 0 | 0 | 0 | 5 | 4.32 |
| 2. 板書 | 0 | 0 | 3 | 2 | 3.61 |
| 3. ノートの時間 | 0 | 0 | 4 | 1 | 3.49 |
| 4. 教科書を活用 | 0 | 0 | 3 | 2 | 3.81 |
| 5. プリント・画面 | 0 | 0 | 2 | 3 | 4.02 |
| 6. 質問しやすいか | 0 | 0 | 4 | 1 | 3.42 |
| 7. 勉学意欲 | 0 | 0 | 4 | 1 | 3.33 |
| 8. 先生の熱意 | 0 | 0 | 0 | 5 | 4.38 |
| 9. 学生の受講態度 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2.53 |
| 10. 授業妨害学生 | 2 | 3 | 0 | 0 | 1.77 |
| 11. 予習・復習・課題 | 2 | 3 | 0 | 0 | 1.97 |
| 12. 理解できたか | 0 | 1 | 3 | 1 | 3.22 |
| 13. 満足しているか | 0 | 0 | 4 | 1 | 3.62 |

全学年

各ポイントを獲得した科目数

科目数

10

| | ポイント範囲 | | | | 平均 |
|--------------|--------|-----|-----|-----|------|
| | 1~2 | 2~3 | 3~4 | 4~5 | |
| 受講態度 | 0 | 4 | 6 | 0 | 3.17 |
| 欠席回数 | 0 | 5 | 3 | 2 | 3.67 |
| 1. 先生の声 | 0 | 0 | 2 | 8 | 4.12 |
| 2. 板書 | 0 | 0 | 4 | 6 | 3.71 |
| 3. ノートの時間 | 0 | 0 | 6 | 4 | 3.53 |
| 4. 教科書を活用 | 0 | 0 | 4 | 6 | 3.94 |
| 5. プリント・画面 | 0 | 0 | 3 | 7 | 4.01 |
| 6. 質問しやすいか | 0 | 0 | 6 | 4 | 3.64 |
| 7. 勉学意欲 | 0 | 0 | 7 | 3 | 3.59 |
| 8. 先生の熱意 | 0 | 0 | 1 | 9 | 4.34 |
| 9. 学生の受講態度 | 1 | 2 | 7 | 0 | 2.95 |
| 10. 授業妨害学生 | 3 | 7 | 0 | 0 | 2.07 |
| 11. 予習・復習・課題 | 2 | 5 | 3 | 0 | 2.60 |
| 12. 理解できたか | 0 | 1 | 5 | 3 | 3.47 |
| 13. 満足しているか | 0 | 0 | 6 | 4 | 3.78 |

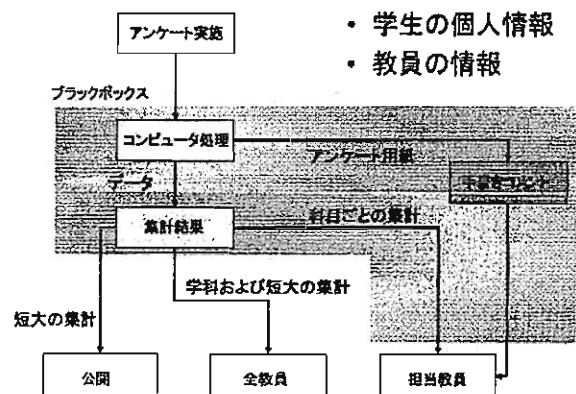
アンケートの規模

- 95科目 約2,000枚のアンケート
 - 学生は各期ごとに平均して12科目ほど履修
 $160\text{名(定員)} \times 12\text{科目} = 1920$
- 科目ごとのアンケート結果 95
- 学科ごとのアンケート結果 2
- 短大全体のアンケート結果 1

アンケート結果の公開について

- 科目ごとのコメント(アンケート用紙)
 →担当教員
- 科目ごとの集計
 →担当教員
- 学科および短大全体の集計
 →全教員に資料として配付
- 短大全体の集計
 →学外へも公開(Webなどで)

アンケート処理の守秘



アンケートを授業改善に役立てる

- FD研修会ではアンケート結果をもとに授業改善に向けての議論をおこなう。
- さらに、学科会議等で、授業改善のための研究会を是非行っていただきたい。
 - 各教員がアンケート結果を自己分析し、今後の授業改善について報告をする。
 - 授業の進め方や学生の履修状況などの問題点を、学科として共有することが教育の質を高める。

4. 卒業生による教育改善アンケート の結果報告

小林 淳一

「金沢学院短期大学の教育改善に向けた卒業生アンケート」結果

2006年度卒業見込学生

報告内容

1. アンケート作成過程と実施方法
2. 集計結果ならびに考察
3. 今後の検討課題

1 - 1. アンケート作成過程

- FD部会において設問の格子を選定。
- 「授業改善のための学生アンケート」と調整し、重複内容の確認及び修正。
- 設問の表現方法とスタイル、記名の有無に関して、再度FD部会で検討。
- 本学卒業生を対象とした予備調査を実施。

1 - 2. 実施方法と処理の流れ

- 調査対象:
本学2年生(回答数164)
内訳
生活デザイン学科2年(回答数67)
食物栄養学科2年(回答数97)
- 実施日:
生活デザイン学科生活文化コース:2月14日
生活デザイン学科デザインコース:2月8日
食物栄養学科:2月8日

• 実施方法:

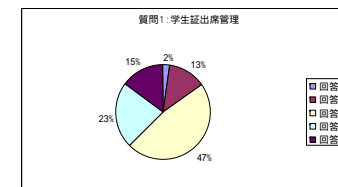
実施・回収: 川尻(食物栄養)・小林(生活デザイン)
方法: 実施者が質問項目を読み上げながら、一斉方式で進行。その際、具体例についての説明を、できる限り記入するように指示。
集計・分析・考察・データ保存: 小林

• データ処理:

調査期間までに得られた回答のみを集計。
回答ミス(例:記入欄の間違いなど)は集計者が修正。
自由記述の個人名表記に関しては全て匿名に置換。

2. アンケート結果

設問1. 学生証による出席管理方法はいかがでしたか。



不満が残った:4

どちらかといえば不満が残った:21

どちらともいえない:77

どちらかといえば満足した:38

満足した:24

回答数:164 / 平均値:3.4

設問1. 自由記述の抜粋と考察

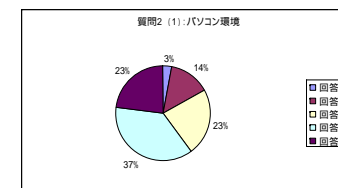
自由記述の抜粋:

- カードを通してののに名前も呼ばれるのはめんどくさい
- 楽だったが一部の授業でしか使わない
- 工大のように教室の入口に設置してほしい
- 通し忘れて欠席になった
- 出席とるのが遅い先生もいた
- 出席管理の機械が1つしかなく、結局時間がかかってしまう
- カードで出席をとる時間がバラバラで機械にカードを通さないで帰ってしまったこともあった
- 混み合うのがイヤでした
- 学生証で出席を管理するなら全ての授業ですべきだと思います。
- 列が長くてごちゃごちゃになったりしてイヤでした

考察:

- と回答しつつも、改善要求や不満を記述するケースが複数確認された。→潜在的な不満、もしくはマークミス?
- 他大学の出席管理方式との比較意見が挙げられた。

設問2. 学内の施設や機器備品についてお尋ねします。(1)パソコン環境



不満が残った:5

どちらかといえば不満が残った:23

どちらともいえない:37

どちらかといえば満足した:61

満足した:38

回答数:164 / 平均値:3.64

設問2 - (2). 机や椅子、黒板など教室の環境

不満が残った:1

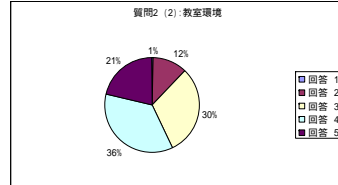
どちらかといえば不満が残った:19

どちらともいえない:50

どちらかといえば満足した:59

満足した:35

回答数:164 / 平均値:3.66



設問2 - (3). スクリーン、プロジェクターなど映像設備

不満が残った:1

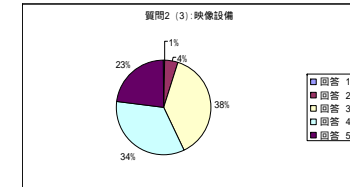
どちらかといえば不満が残った:7

どちらともいえない:62

どちらかといえば満足した:56

満足した:38

回答数:164 / 平均値:3.75



設問2 - (4). 体育館の器材

不満が残った:2

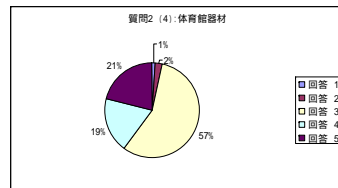
どちらかといえば不満が残った:4

どちらともいえない:91

どちらかといえば満足した:31

満足した:34

回答数:162 / 平均値:3.56



設問2 . 自由記述の抜粋と考察

パソコン

- PCは学科ごとやクラスごとに一台ずつあったほうが調べたりする時に利用しやすい
- PCが2号館まで行けないうえに、4・5号館にも無線lan以外に使える所があって良いと思う。
- マックのパソコンを利用する時に、くわしく使い方を教えてくれなかったのが、所々で不満がありました。使えるソフトなども、パソコンによって違ったときがあったので不便でした。
- パソコンは課題とかあって遅くまでパソコンをしたい時、時間が決まってい、あとすこし夜おそくまでできたり朝早くからできたらいいと思う。
- マックをもう少し増やして欲しい。インターネットを接続して欲しい。
- 2号館に行かないとネットにつながるマックがない
- パソコンのバージョンが違う部屋がある(マルチ)全部統一してほしい
- パソコン環境は良かったと思いますが、フォトショップが中に入るとありがたかったです
- プリンターもパソコンも新しい方だったので使いやすかった

教室

- 教室が学生の人数に対して狭かった、もっと広くして欲しかった。
- 教室にいらぬ物がいっぱいあった。
- 学校を24時間使えるようにして下さい。(他の大学みたいに)
- 机がこわれてた。早くかえてあげてください。
- 教室の下水が臭くてにおってくる。
- 机や椅子が壊れているものがけっこうあったので気になった
- 各教室に時計があったらよかったです
- ホワイトボードが見えにくいと思った

スクリーン、プロジェクターに関してはほとんど指摘なし。
体育館は「使わなかった」「何かがあるか知らない」の2点に集約。

考察

- 数値データ以上にパソコンに対する改善要求が多数挙げられた。
- Macに関する要望は、全てデザインコースの学生からであった(回答数4)
- 机や椅子の破損、時計の設置など、教室環境には、設備面における具体的な改善案が挙げられた。
- 体育館の平均値3.56は、使用機会の無かったため と回答した学生が、相当数存在した結果である。

設問3 . シラバス(講義要項)を利用しましたか

利用しなかった:24

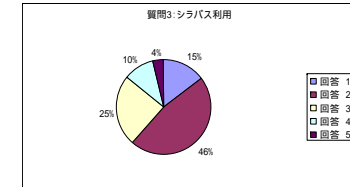
あまり利用しなかった:76

半分くらいの講義で利用した:40

ほとんどの講義で利用した:17

全ての講義で利用した:6

回答数:163 / 平均値:2.41



設問3 . 自由記述の抜粋と考察

自由記述の抜粋

- はじめだけ見た / 前期と後期のはじめだけ見た
- 予定通りに進んでないものが多かった。
- 見たけどわかんない
- 一人一冊もいらぬと思った
- 重たいから持ってこれない
- いつ利用すればいいのか分からない
- シラバス通りに講義が進まなかったから
- 授業の説明を事前に知るためのみ、利用しました。正直、シラバス通りに進んでいるとは思えません。
- 先生によっては内容が違うことになったりするので(それが普通かとも思います)が1回目、2回目とする必要はない気がします
- ロッカーに入ったまま
- 講義をえらぶ上でとてもべんりだった

考察

- 利用頻度は低い。
- 学生が利用方法を知らないことと、講義内容の随時変更が今回の結果を導出したと考える。

設問4 . プレゼミナール(1年次火曜4限)はいかがでしたか。

不満が残った:10

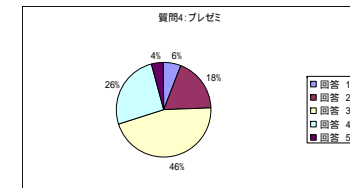
どちらかといえば不満が残った:30

どちらともいえない:75

どちらかといえば満足した:42

満足した:7

回答数:164 / 平均値:3.03



設問4. 自由記述の抜粋と考察

肯定的コメント抜粋:

- ・ 就職の参考になった良いものもあった。それはとても役に立ったと思う。
- ・ 模擬面接ができてよかった
- ・ いろいろな人の話が聞けて楽しかったです
- ・ 学外に行ったのは(テレビ金沢)楽しかったです

否定的コメント抜粋:

- ・ 興味のないことも多かった / よく意味がわからなかった。 / あんなものといえはあんなもの / 特に何もおぼえていない / ちょっとめんどくさい / 主旨がわからない / 講義の内容があまりおもしろくない / 4限目じゃない方がよかった。

考察

- ・ 個々の意識や受講姿勢に応じて、満足度に大きな開きがある。
- ・ を回答し「興味がない」「おぼえていない」「おもしろくない」等、→受講意欲が低く、受動的な出席が多い。

否定的コメント続き

- ・ もっと就職活動に力を入れるべきだと思います。
- ・ ぐだぐだでなに話してるかよくわかりませんでした
- ・ 内容がうすくておぼえてないです / 時間を越すことが多くて困った。
- ・ 面接の練習は1回しかなかったし、中途半端な時期にやっていたのでやらなくてもいいんじゃないかと思った
- ・ 眠っている人をもっとしっかり注意すべきだと思っ
- ・ 履歴書の添削はもっといろんな先生にみて欲しかった
- ・ 講堂で1学年全員が集まったので人が多過ぎて集中できませんでした

設問5. 「学生なんでも相談」はいかがでしたか。

不満が残った:5

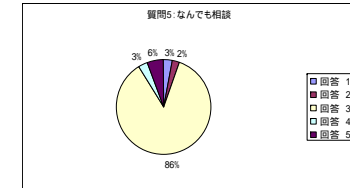
どちらかといえば不満が残った:4

どちらともいえない:139

どちらかといえば満足した:5

満足した:9

回答数:162 / 平均値:3.05



設問5. 自由記述の抜粋と考察

自由記述の抜粋

- ・ 悩んだとき話を聞いてもらえて助かった
- ・ 悩んでいる時、話を聞いてもらって楽になりました
- ・ 利用したことがない / 知らない / つかってない
- ・ いつやっているかわからない / それはなんですか?
- ・ どこにあるんですか?
- ・ 利用する機会がなかった

考察

- ・ 「利用機会がないから評価できない」という学生に対しては、 を選択するように指示。
 - ・ 自由記述欄に利用の感想(回答数2)。
 - ・ 「利用機会なし」、「存在自体知らない」という趣旨の自由記述が47個。
 - ・ 、 を選択しながらも、「利用機会なし」と回答した卒業生5名。
 - ・ 個々の教職員が役割を遂行?(設問6と関連)
- これらの結果から、多くの卒業生は「学生なんでも相談」の役割を理解・認識するには至っていないと推測できる。

設問6. 教職員との間に信頼関係はあったと思いますか。

そう思わない:2

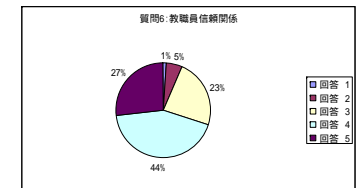
どちらかといえばそう思わない:9

どちらともいえない:38

どちらかといえばそう思う:71

そう思う:44

回答数:164 / 平均値:3.89



設問6 . 自由記述の抜粋と考察

肯定的コメント抜粋:

- 先生と仲良しになれたと思う
- みんないい先生で大スキ
- とても話しやすく、色々相談できたのでよかった。
- どんな話でも聞いてくれて親しみやすくよかったです。
- 自分のことをよく考えてくれた
- みんな優しい先生ばかりだと思います。
- いろいろ個性的でおもしろかった。
- 担当の先生が熱心でいい人でした
- 一部の先生と仲よかったです
- たくさんお世話になりました。相談しやすかったです。

その他、否定的なコメント抜粋:

- 信頼関係を深くしたいと思いましたが上手く出来ませんでした。
- 個性的な先生が多いのでつかれた。
- 信頼している先生もいれば、信頼できない先生もいた
- 先生によってある人となない人がいました / 教職員による。
- 職員の人によって極端であると思う

設問6 . 自由記述の抜粋と考察

考察

- 度数分布、平均値、自由記述のいずれにおいても、全体傾向としては概ね肯定的な結果が得られた。
- その一方で、「個々の教員次第」、「一部の先生と仲良かった」という個別的な指摘も複数寄せられた。

- 担任に関しては全体的に高評価。

→詳細把握をするには、質問項目を再検討する必要性。
(ただし個人評価にならない前提のもと)

設問7 . 短期大学事務(教務部、学生部など)の対応はいかがでしたか。

不満が残った:6

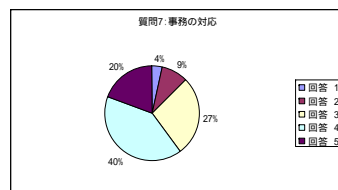
どちらかといえば不満が残った:15

どちらともいえない:44

どちらかといえば満足した:67

満足した:32

回答数:164 / 平均値:3.63



設問7 . 自由記述の抜粋と考察

肯定的コメント抜粋:

- 親切で良かったです
- いつも丁寧に対応してくれました
- 就職関係の時や、帰省の時によくお世話になった。
- 詳しく説明して下さることが多く、助かります
- 分からない事があって聞いたらすぐに何でも答えてくれました
- 学友会で学生課の方々にとってもお世話になりました
- 親しく接してくれたから、うれしかった

否定的コメント抜粋:

- もっといいのに対応して下さい。
- あまり気持ちの良い対応ではなかった
- 暗い。行きづらかったです。
- 対応が遅い。
- 必要以上に質問が多かった。
- 一部の人はまじめに仕事をしているのが疑わしい。何しに学校に来ているのかわからない人がいる。
- 意味不明に怒ってきたから、本当にキレそうだった
- 良い人、悪い人、口調が怖い
- 無愛想な人がいたので少し嫌な気分になった
- 忙しいからかわからないけど、めんどくさそうな対応をされた。無表情だった。

考察

- 数値による全体傾向は、肯定的な評価が導かれた。
 - 自由記述は、具体的な不満が複数挙げられた。
 - 質問範囲が広く、回答に揺れがあった。
- 質問方法の再検討、場合によっては細分化の必要性。

設問8 . あなたの就職について、短期大学の対応はいかがでしたか。

不満が残った:6

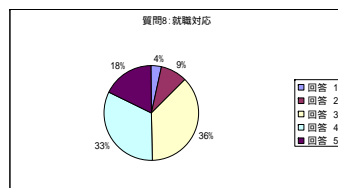
どちらかといえば不満が残った:15

どちらともいえない:60

どちらかといえば満足した:54

満足した:29

回答数:164 / 平均値:3.52



設問8 . 自由記述の抜粋と考察

自由記述の抜粋

- ・ 担任の先生はよく気にかけてくれたのですが地元(富山)の求人あまり届かなかった。あと恐くて就職指導部にいきづらかった。
- ・ 最後は就職指導部の方のお世話に
- ・ 担任の先生はいろいろ相談のつてくれたけど、就職指導部の人の対応あまりよくなかった
- ・ りれき書などお世話をたくさんしていただいた。いろいろ相談のつてもらえてうれしかったです
- ・ 履歴書なども先生にみていただきました。一緒になって喜んでくれました
- ・ 結局は本人のやる気なので、対応は普通だと思います
- ・ 指導部の先生は間違ったことを言っていないと思うが少し冷たいと思いました。生徒は確かに多いけど、もう少し親身になって欲しいです。
- ・ 短大にきた募集で就職を決めたので就職指導部の人にはとてもお世話になりました。
- ・ まだ就活していないけどそれまでの準備は勉強になった。
- ・ 学校はあてにしていけない、県外の就職についてもっと対応するべき。
- ・ 就職指導部の人がちょっとつっこんできすぎたせえる。
- ・ あまり希望通りの職種を選びづらかった。
- ・ 先生にも相談できまし、指導部の人にもアドバイスをもらえた。

考察

- ・ 緻密な情報提供と個々の履歴書添削が、肯定的な評価の理由と考える。
- ・ プライバシーを配慮した対応、県外(主に富山県)の就職情報提供の充実が、今後の課題と考える。
- ・ 積極的かつ主体的な意識を、全学的に定着させる必要性。(→プレゼミとの関連?)

設問9 . 本学での勉強内容や資格・検定取得はあなたの進路に役立つと思いますか。

そう思わない:6

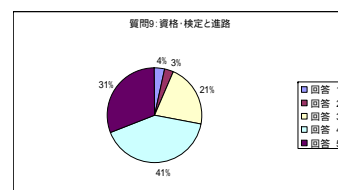
どちらかといえばそう思わない:5

どちらともいえない:35

どちらかといえばそう思う:67

そう思う:51

回答数:164 / 平均値:3.93



設問9 . 自由記述の抜粋と考察

自由記述の抜粋

- ・ 栄養士としての就職なんで
- ・ 資格は本当に取れて良かったと思う。
- ・ これは個人の問題だと思います。
- ・ 役立つと思うけど、金沢検定は役に立つのか。
- ・ 役に立たないのに無理に受けさせないでほしい。
- ・ ファッション系の検定にも奨学金出すべき
- ・ 販売能力とファッションビジネスは役に立つと思う。
- ・ もっと学校で検定対策をしてほしかった
- ・ 実際に秘書にはならないが、言葉づかいの勉強ができたのでよかった
- ・ お金がもらえることでやる気が出て、結果、役に立つ資格を取れた

考察

- ・ 度数分布、平均値において肯定的な結果が導出された。
 - ・ 奨学金制度との関連を意識。
 - ・ 「全く取得しなかった」という卒業生も複数存在した。
- 設問16と関連して後述。

設問10. 本学で学んだことがあなたの将来に活きますか。

そう思わない:4

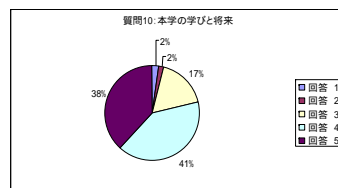
どちらかといえばそう思わない:3

どちらともいえない:28

どちらかといえばそう思う:66

そう思う:63

回答数:164 / 平均値:4.1



設問10. 自由記述の抜粋と考察

自由記述抜粋

- 色んな経験ができたのでよかったです
- 自分が暮らしていく中で役に立つことだから
- 専門の科目を活かせるような職に就けたので生きてくと思う。
- 将来の就職先で活用できると思う。
- 全てではないけど将来に役立つ授業はありました。
- 特にK先生の授業を受けているんな角度から物事を見れるようになりました。
- 今は何とも言えない・そんな将来のことわかるはずがない
- 就職先では活きないと思うけど、まだ将来はわかりません。
- いつか生きてくと思います・子供に服を作りたい。
- 仕事に役に立つ授業がけっこうあったから、いろいろな場所でつかえると思った
- マナーについて学べたのが良かった・専門的な知識なので活かせる場面が限られる

考察

- 平均値は、全設問中最大値(4.1)。
- 「将来のことは今はわからない」という趣旨の指摘をし、 を回答した卒業生が5名。
→在学中から「学ぶ意義」を確実に伝える必要性。
→追跡調査の検討。

設問11. 本学を兄弟や後輩、友人に勧めたいと思いますか。

そう思わない:10

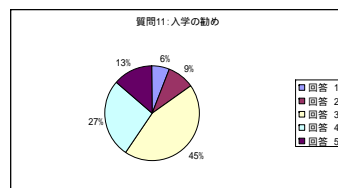
どちらかといえばそう思わない:15

どちらともいえない:72

どちらかといえばそう思う:44

そう思う:22

回答数:163 / 平均値:3.33



設問11. 自由記述の抜粋と考察

自由記述の抜粋

- 勧めようと思う人の学びたいと思っている内容による。
- 専門的な分野を本格的に学びたい人にはあまりすすめられないと思います。
- 楽しく過ごす分にはいいが、本当に勉強したいなら少し良くないと思う。
- 自分自身が学業にそこまでうちこんでなかった。
- 結果自分の進みたい所にはすすめないと思うのであまりすすめたくない。
- 先生が良いから・遠いから
- 今年からセンター利用もできるようになったのでいいと思う。
- たのしいし、服をたくさん作れたし、いい友達ができたから。
- 好きな大学にすすめばいいと思うので無理にすすめることはしません、たのしかたです。
- それぞれの将来によるけど、目指すものによっては、勧めたいと思う
- 金沢について学びたい人はお勧めだが、そうでない人はやめた方がいいと思う
- 本人が希望しているのであれば応援します・ぜひみんなこの学校にいればいいと思います
- 家から近くて、通いやすかったので後輩にすすめたいです
- 楽がいいところで、授業はほとんど退屈だったかもしれない、、おもしろいもありました

考察

- 本人の満足度と比較すると、他者への勧めは相対的に低い。(設問10、12、13との比較関連)
- 専門知識の習得には否定的。(設問12との比較関連)
- 個人的な興味・関心や距離的な問題などを、入学希望者が個々に適性吟味すべきとする客観的な分析が多く寄せられた。

設問12. 入学前と現在を比較して、本学に対する思いは次のうちのどれですか。

不満が残った:3

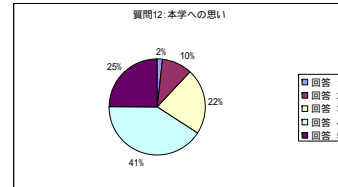
どちらかといえば不満が残った:17

どちらともいえない:36

どちらかといえば満足した:67

満足した:41

回答数:164 / 平均値:3.77



設問12. 自由記述の抜粋と考察

自由記述の抜粋

- ・ 富短に落ちて渋々来たけど、今は学院で本当に良かったと思います。
- ・ いい友達と出会えたことが一番
- ・ 入学前と比べてこんなにいい学校だと思いませんでした
- ・ 思っていたより大分良かったのではないかと思います
- ・ 金沢のことを勉強できて、少しは知識が深まったと思う
- ・ 期待していた以上だった
- ・ あまり勉強をした感じがしない
- ・ はじめはすごく嫌だったけど、たのしかった。
- ・ 資格を取ることができたとし、楽しくすごしてこれたと思う。
- ・ 部活動については、満足でした。もっと続けたかった。
- ・ もう少し専門的な授業が多くてもいいと思います。
- ・ もっとしっかり勉強したかった。厳しくても良かったと思う。
- ・ 学んだことが中途半端だった気がします。

考察

- ・ 本意入学者の満足度は概して高い。(→設問14)
- ・ 知的欲求を充足するには至らないとする意見が複数挙げられた。(設問11との比較関連)
→満足度を基底する要因について詳細に調査する必要性。

設問13. 総合的に判断して、あなたは本学で学んでいかがでしたか。

不満が残った:2

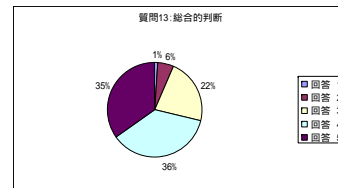
どちらかといえば不満が残った:9

どちらともいえない:36

どちらかといえば満足した:59

満足した:57

回答数:163 / 平均値:3.98



設問13. 自由記述の抜粋と考察

自由記述の抜粋

- ・ たくさん資格にも挑戦できた
- ・ 社会について学べたのが良かった
- ・ サークル活動は素晴らしいものであった
- ・ 勉強も人間関係もとても満足しました
- ・ いろんな先生から、いろんな事を学んだ事がうれしいです
- ・ ずっと付き合っていたい教員や友人に出会えた
- ・ クラスは少人数だったけど、団結力が高まってよかったし、仲間がいるから頑張れた
- ・ 入学の動機も不純だったため、満足できなかった
- ・ 資格の勉強がほとんど独学だった気がする
- ・ 普通、第一希望の大学に行きたかった
- ・ 学業的にはどちらともいえないが、部活動については満足でした。
- ・ 課題をやりきれなかったことがある
- ・ 資格が取れたのは良かったけど、専門的な知識を身に付けたかった。

考察

- ・ 度数分布、平均値において肯定的な結果が得られた。
- ・ 人間関係(学友や教職員)、資格取得、部活動などを理由に高い満足度が得られた。
- ・ 学業における具体的な指摘は少なかった。

14. 金沢学院短期大学に入学するきっかけを次の中から選んでください。いくつ回答してもかまいません。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 高校教員の勧め:53 友人・先輩の勧め:12 両親・家族の勧め:28 オープンキャンパス:43 ホームページ:38 テレビ・新聞:4 進学相談会:7 部活推薦:8 その他43 | <ul style="list-style-type: none"> →その他一覧 ・食物栄養学科志望・栄養士になりたい:6 ・距離的理由(県内・隣県):5 ・不本意入学(滑り止めを含む):4 ・生活デザイン学科志望:3 ・金銭的理由(奨学金を含む):2 ・東高校推薦:2 ・家族親戚に卒業生がいた:2 ・大学一覧を参考:2 ・各種資格取得:1 ・パンフレット:1 ・本学教員の雑誌:1 ・就職を決めるには2年で十分:1 ・他短大との比較:1 ・友達が受験:1 ・小説の勉強:1 ・とりあえず進学:1 |
|---|---|

15. 部活動・サークル活動・学友会活動・ボランティア活動をしましたか。在学中に参加した課外活動を、全て書いてください。

- ・部活・サークル活動:48
- ・北三大会:17
- ・学園祭:4
- ・学友会:8
- ・ジャパンテント:7
- ・ファッションショーの手伝い:7
- ・オープンキャンパス:5
- ・ボランティア:4
- ・色彩調査:2
- ・60周年式典での演奏:1
- ・オペラ鑑賞会:1
- ・その他

16. 在学中にどのような資格を取得しましたか。取得した資格を、全て書いてください。

- | | |
|---|--|
| <p>本学カリキュラム内で取得可</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士 ・社会福祉主事任用資格 ・秘書士 ・プレゼンテーション実務士 ・情報処理士 ・ビジネス実務士 ・医療管理秘書士 ・医事管理士 | <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道審判C級ライセンス ・書写検定(3級) ・普通自動車第1種運転免許 ・秘書技能検定(2級・3級) ・色彩検定(2級・3級) ・ファッション販売能力検定(2級・3級) ・漢字検定(準1級 - 3級) ・英語検定(2級 - 準2級) ・ビジネス文書検定(1級 - 3級) ・コンピューターサービス技能評価試験 ・医療事務士(2級) ・パソコン検定(3級) ・福祉住環境コーディネーター(3級) |
|---|--|

回答数と実数が不一致→調査方法の再検討
 名称を知らない、もしくは取得資格がわからない卒業生
 →資格取得の意味付けや意識付けの必要性

17. 在学中に、あなたが特にながらばってことを書いてください。

- ・学業(卒業研究・課題・試験・実習・補講など)
- ・資格取得
- ・部活動
- ・北三大会
- ・人間関係・交友
- ・アルバイト
- ・日常生活
- ・その他

18. 質問項目の他に、通学環境(シャトルバス、北鉄バス、駐車場など)、学生食堂、キャンパス全体など、金沢学院短期大学に対するあなたの意見や要望、さらには学生生活全般を通しての感想がありましたら、以下の余白に自由に書いてください

- 通学環境に関して
- 学生食堂に関して
- 購買に関して
- 教職員に関して
- その他

3. 今後の検討課題

アンケートをどう教育改善に活用するか

- 結果を教職員で共有→研修会実施を視野に
- Webによる公表の検討
- 改善方略の具体的な吟味

アンケート内容の再検討

- 本調査を基礎にした発展的質問項目の検討
→汎用性の高い調査項目の選定
- 個別評価につながらない詳細把握の必要性
- 授業アンケートとの関連性、異同の再確認

調査・集計・分析における現状と今後の課題

- データの信頼性・透明性確保
- より客観的で具体性の高い調査を目指すために
- 比較資料の充実

追跡調査・アウトカムズの実施に向けて

- 質の高いデータの確保のために(トライアングレーション)
- 統計資料としてではなく、個々の率直な意見として尊重する視点(回収率との関連→信頼関係)
- 具体的方略と課題

まとめにかえて

- 信頼関係の構築(本学に対する満足度の向上)
- 在学中にアンケートに慣れさせる配慮(授業評価と関連)
→教職員、学生の双方の意識改革

金沢学院短期大学の教育改善に向けた卒業生アンケート

(実施日：平成 19 年 2 月 日)

卒業おめでとうございます。このアンケートは、卒業するみなさんの意見を参考にして金沢学院短期大学の教育を今後より一層充実させるためのものです。本学の教育改善のため、2年間の学生生活の率直な感想を書いて下さい。

名前、学科、クラス、名列番号を教えてください。

| | | | | | | | | | |
|--------|----------|------|------|------|------|------|--|--|--|
| 名前 | | | | | | 名列番号 | | | |
| 学科・クラス | 生活デザイン学科 | 文化 A | 文化 B | デザ A | デザ B | デザ C | | | |
| | 食物栄養学科 | A | | | B | | | | |

学生生活についてお尋ねします。以下の各項目に対して、あなたはどのように思いましたか。各項目について当てはまる番号を塗りつぶしてください。

さらに、その理由や具体例について説明する場合は、スペースに自由に記述してください。

1. 学生証による出席管理方法はいかがでしたか。

どちらかといえば
どちらとも
どちらかといえば
満足した
満足した

不満が残った 不満が残った いえない 満足した 満足した

2. 学内の施設や機器備品についてお尋ねします。

不満が残った
どちらかと言えば
どちらとも
どちらかといえば
満足した

不満が残った
いえない
満足した

(1) パソコン環境

机や椅子、黒板など

(2) 教室の環境

スクリーン、プロジェクターなど

(3) 映像設備

(4) 体育館の器材

3. シラバス（講義要項）を利用しましたか。

あまり
半分くらいの
ほとんどの
全ての

利用しなかった 利用しなかった 講義で利用した 講義で利用した 講義で利用した

4. プレゼミナール(1年次火曜4限)はいかがでしたか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| 不満が残った | 不満が残った | いいない | 満足した | 満足した |

5. 「学生なんでも相談」はいかがでしたか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| 不満が残った | 不満が残った | いいない | 満足した | 満足した |

6. 教職員との間に信頼関係はあったと思いますか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| そう思わない | そう思わない | いいない | そう思う | そう思う |

7. 短期大学事務(教務部、学生部など)の対応はいかがでしたか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| 不満が残った | 不満が残った | いいない | 満足した | 満足した |

8. あなたの就職について、短期大学の対応はいかがでしたか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| 不満が残った | 不満が残った | いいない | 満足した | 満足した |

9. 本学での勉強内容や資格・検定取得はあなたの進路に役立つと思いますか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| そう思わない | そう思わない | いいない | そう思う | そう思う |

10. 本学で学んだことがあなたの将来に活きますか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| そう思わない | そう思わない | いいない | そう思う | そう思う |

11. 本学を兄弟や後輩、友人に勧めたいと思いますか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| そう思わない | そう思わない | いけない | そう思う | そう思う |

12. 入学前と現在を比較して、本学に対する思いは次のうちのどれですか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| 不満が残った | 不満が残った | いけない | 満足した | 満足した |

13. 総合的に判断して、あなたは本学で学んでいかがでしたか。

| | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| 不満が残った | 不満が残った | いけない | 満足した | 満足した |

14. 金沢学院短期大学に入学するきっかけを次の中から選んでください。いくつ回答してもかまいません。項目以外のきっかけがある場合は、『 その他』を選び、カッコの中に記述してください。

- 高校の先生に勧められて
- 友人や先輩に勧められて
- 両親や家族に勧められて
- 本学のオープンキャンパスに参加して
- 短期大学ホームページをみて
- テレビや新聞の案内をみて
- 進学相談会に参加して
- 部活動の推薦を受けて
- その他 ()

以下の各項目に対して、あなたの意見・感想を教えてください。

15. 部活動・サークル活動・学友会活動・ボランティア活動をしましたか。在学中に参加した課外活動を、全て書いてください。

16. 在学中にどのような資格を取得しましたか。取得した資格を、全て書いてください。

17. 在学中に、あなたが特にがんばったことを書いてください(複数回答可)

18. 質問項目の他に、通学環境(シャトルバス、北鉄バス、駐車場など) 学生食堂、キャンパス全体など、金沢学院短期大学に対するあなたの意見や要望、さらには学生生活全般を通しての感想がありましたら、以下の余白に自由に書いてください

ご協力ありがとうございました。

5. 第三者評価について

吉田 寛治

教育職勤務マニュアル

2006年度

自由が丘産能短期大学

目 次

I 本学基本方針に関する事項

| | |
|-----------------------|---|
| 建学の精神 | 1 |
| 本学の教育理念 | |
| 本学の教育目的・各科目区分の教育目標 | |
| ◆ 経営理念 | 2 |
| ◆ 長期経営ビジョン | 3 |
| ◆ 短大通学課程の長期ビジョンと長期的課題 | 4 |

II 自由が丘産能短期大学 教育職規程に関する事項

| | |
|--------------------|----|
| ◆ 自由が丘産能短期大学 教育職規程 | 5 |
| 1. スケジュール | 6 |
| 2. 授業担当コマ数・増担手当 | 7 |
| 3. 研究日 | 8 |
| 4. オフィスアワー | 9 |
| 5. ミーティングアワー | 10 |
| 6. 研究費 | 11 |
| 7. 学外活動・学内他部署業務 | 12 |
| 8. 個人情報の取扱い | 13 |
| ◆ 学生情報取扱規程 | |

III 授業に関する事項

| | |
|----------------|----|
| 1. 科目主務者 | 14 |
| 2. シラバス | 15 |
| 3. 履修 | 16 |
| 4. 授業 | 17 |
| 5. 試験・成績 | 18 |
| 6. 成績評価の方法について | 19 |
| 7. GPAについて | 20 |

IV 自己点検・評価及びFD

| | |
|-----------------------|----|
| 1. 自己点検・評価 | 21 |
| 短大の自己点検評価及び組織 | |
| ◆ 短大自己点検評価・第三者評価委員会規程 | |
| 2. 授業評価 | 22 |
| 3. 授業参観・FD研修会 | 23 |

V 研究等に関する事項

| | |
|----------------|----|
| 1. 部署案内 | 24 |
| 2. 研究室 | 25 |
| 3. 印刷・コピー | 26 |
| 4. 学会出席 | 27 |
| 5. 履歴書・教育研究業績書 | 27 |
| 6. 紀要 | 27 |
| 7. その他 | 28 |

注：◆は諸規程等から転載

兼任教員マニュアル

2006年度

自由が丘産能短期大学

目 次

| | |
|----------------------|----|
| ◆ 建学の精神 | 1 |
| 本学の教育理念 | |
| 本学の教育目的・各科目区分の教育目標 | |
| ◆ 経営理念 | 2 |
| ◆ 学生の個人情報保護について..... | 3 |
| 1. 兼任教員の委嘱について..... | 4 |
| 2. 出講 | 5 |
| 3. 履修 | 6 |
| 4. 授業 | 7 |
| 5. 試験・成績 | 8 |
| 6. 成績評価の方法について | 9 |
| 7. GPAについて | 10 |

2006年度

新入職員のしおり



学校法人 産業能率大学

はじめに

この「新入職員のしおり」は、新しく本学に入職された方々に、学校法人産業能率大学の姿をできるだけ正しく理解していただくためのものです。

本学の考え方、職員としての心構え、本学の概要や、諸規程・諸制度などをまとめてあります。よく読まれ、一日も早く職場に慣れて、期待に応える“産能大職員”になって頂きたいと思います。

本学には、組織目標を達成するための、様々な方法や手段、ルールがあります。また、職員の一人ひとりが最善を尽くし、工夫をこらし、個性を活かしていける風土と環境もあります。

自己研鑽に努め、自信をもってあなたの能力を存分に発揮していただきたいと思います。

人事部

目 次

| | |
|------------------------------|----|
| 建学の精神 | 1 |
| 行動指針 | 1 |
| 1. 学校法人産業能率大学の目的 | 2 |
| 2. 本学の概要と推移 | 2 |
| (1) 概 要 | 2 |
| (2) 年 譜 | 3 |
| 3. 人事管理の基本方針 | 5 |
| (1) 目標による管理 | 5 |
| (2) 「チャレンジし続けるプロ集団」の実現 | 6 |
| (3) 人権の尊重について | 6 |
| 4. 服務規律と勤務条件 | 7 |
| (1) 服務規律 | 7 |
| (2) 勤 務 | 7 |
| (3) 人 事 | 8 |
| (4) 安全・衛生 | 10 |
| (5) 災害補償 | 10 |
| (6) 知的財産権について | 10 |
| 5. 給 与 | 11 |
| (1) 基本方針 | 11 |
| (2) 給与規程 | 11 |
| (3) 昇 給 | 12 |
| (4) 賞 与 | 13 |
| (5) 退職金 | 13 |
| 6. 人事考課 | 15 |
| (1) 昇給のための人事考課 | 15 |
| (2) 賞与のための人事考課 | 15 |

| | |
|----------------------------|----|
| 7. 福利厚生 | 17 |
| (1) 日本私立学校振興・共済事業団 | 17 |
| (2) 労働保険 | 18 |
| (3) 本学の福利厚生制度 | 19 |
| ① 慶弔見舞金 | 19 |
| ② 貸付金 | 19 |
| ③ 生活扶助金制度 | 19 |
| ④ 遺児育英資金制度 | 19 |
| ⑤ 人間ドック利用補助 | 19 |
| ⑥ スポーツ・レクリエーションクラブ施設 | 19 |
| ⑦ リフレッシュ施設（職員保養所） | 19 |
| ⑧ 学費の減免 | 20 |
| ⑨ 自己啓発援助制度 | 21 |
| ⑩ 図書館の利用 | 21 |
| ⑪ おんきょう（音楽文化協会） | 21 |
| (4) 互助会 | 21 |

7. GPAについて

(1) GPA 制度の趣旨

大学の社会的責任として、卒業時における学生の質の確保を考える必要があります。そのためには各授業科目において、厳格な成績評価を行う必要があります。しかし評価するだけでは教育効果として不十分です。一人ひとりの学生の学修が順調に進んでいるのか、あるいは捗っていないのかを客観的に判定し、学修のフォローアップをする必要も出てきます。こうした学生の学修状況を判断するために GPA（評価点平均）制度を採用して、学生に対する表彰の基準としたり、反対に一定の水準を下回った学生に対しては特にきめ細かな学修相談を行うなど、学生の学習意欲を喚起する取組を行っています。

GPA 制度により、以下の効果も想定されます。

- ・ 履修にあたり適切な学習量を考慮した履修科目数が期待される（自主的な履修科目数制限）。
- ・ 厳格な成績評価についての教員の意識を高めることができる。

(2) GPA 制度とは

GPA は、各学期に履修した授業科目の単位数にグレードポイント(Grade Point)を乗し、その合計を各学期の履修単位数の合計で除したものです。具体的には、A 評価が多いとグレードポイントが高くなり、F 評価が多いと低くなります。

| |
|--------------------------------------|
| 各評価のグレードポイント S=5、A=4、B=3、C=2、D=1、F=0 |
|--------------------------------------|

この GPA の値により学修指導、進級・卒業判定、奨学金支給の可否、表彰者の決定が行われることとなります。（※別紙1 GPA Q&A）

(3) GPA 制度導入に伴う成績評価における変更点

- ① 学生がある程度、授業内容を理解した上で履修するか否かを決定できるように「履修中止」制度を実施しています。（※別紙2 履修中止制度の一部運用方法変更について）
- ② レポート追受理制度を実施しています。（※別紙3 2006年度 SANNO NAVI 抜粋）
- ③ 追試験・再試験は SANNO NAVI「授業科目一覧」で定められた科目のみ実施します。

成績評価の標準手順

自由が丘産能短期大学

GPA によって、厳格な成績評価を実施することになります。そのため成績についてより一層の説明責任を求められることになります。評価の納得性を高めるためにも以下の手順をご参考にしていただき、成績評価を実施していただければと存じます。

1. 評価方式の決定について

- ・成績評価の方法について科目主務者と相談してください。
- ・授業への取り組みに関しては、以下のような方法をご検討ください。
 - a) 単なる出席のみでなく、ミニペーパー、小テスト、中間テストなどを実施してください。
 - b) 小テストなどを実施した結果は、できるかぎり学生にフィードバックしてください。
- ・達成度に関しては応用課題、最終試験、最終レポートで評価してください。

2. 評価の集計

- ・シラバスに基づいた割合により、授業への取り組みと達成度を集計してください。

3. 成績評価

- ・素点のよい順に並べ替えを行い、ガイドラインの割合に基づいて評価を行ってください。

※ただし受講者数が少ない場合（15名以下程度）には科目主務者とご相談ください。

| 評価 | 割合 | 説明 |
|----|--------|--------------------|
| S | 0～5% | 学習目標を完璧に達成している学生 |
| A | 25%±5% | すぐれた学習成果が認められる学生 |
| B | 30%±5% | 標準的な学習成果を達成した学生 |
| C | 20%±5% | 標準的な学習成果まで努力を要する学生 |
| D | 0～15% | かろうじて学習成果を達成したレベル |
| F | 0～20% | 学習成果が認められないレベル |

4. 評価の妥当性検証

- ・評価された結果がA,B,Cそれぞれの成績にふさわしいかチェックをお願いします。
- ・A,B,C、それぞれの割合が上限のさらに10%を超える場合には科目主務者までご連絡ください。（A:40%以上 B:45%以上 C:35%以上 次ページ【参考】参照）
- ・Fの成績がつく場合には科目主務者にご連絡ください。

【参考】

表1

| 評価 | 割合 | 上限 |
|-------|--------|-------|
| S | 0~5% | 該当者なし |
| A | 25%±5% | 30% |
| B | 30%±5% | 35% |
| C | 20%±5% | 25% |
| D | 0~15% | 該当者なし |
| F | 0~20% | 該当者なし |
| 上限の合計 | | 90% |

S,D,F の評価はクラスの状況によって、つかないこともあり得ます。その場合、ガイドラインに従うと A,B,C すべて上限まで割り振っても合計は 90%にしかありません (表1 参照)。この場合、残りの 10%を A,B,C いずれかの成績に割り振ることは可能です。また S,D,F の評価があった場合でも人数が少ない場合には 10%を超えない範囲で A,B,C の成績に割り振ることが可能です。

・ 40 人クラスの場合の具体例

表2

| 評価 | 人数 | 割合 |
|----|----|-----|
| S | 0 | 0% |
| A | 10 | 25% |
| B | 18 | 45% |
| C | 12 | 30% |
| D | 0 | 0% |
| F | 0 | 0% |

上記の例を具体的に考えると表2のようになります。この場合 B 評価が多くなっていますが、B 評価の上限に 10%を加えた割合以下のため、差し支えありません。

$$35\% + 10\% \geq 45\%$$

表3

| 評価 | 人数 | 割合 |
|----|----|-----|
| S | 0 | 0% |
| A | 12 | 30% |
| B | 20 | 50% |
| C | 8 | 20% |
| D | 0 | 0% |
| F | 0 | 0% |

表3の場合、B 評価の部分が B 評価の上限に 10%を加えた値を越えているので不適切な割合となります。

$$35\% + 10\% \leq 50\%$$

このような成績配分になってしまう場合は科目主務者にご連絡ください。

GPA Q&A

Q1 GPAとはどのような制度ですか。

A1 自由が丘産能短期大学では、成績を数値化して評価するGPA(Grade Point Average)制度を導入しています。GPAは欧米のほとんどの大学でも用いられている国際的な成績評価システムといえます。本学のGPAでは、成績をS、A、B、C、D、Fの6つのランクで評価しており、ランクごとにGP(Grade Point)を与えています。具体的な評価の内容を下記の表で確認してみましょう。

■本学の成績評価基準

| 成績評価 | 判定 | GP | 学生への説明内容 |
|------|-----|----|---------------|
| S | 合格 | 5 | 極めて優れている |
| A | 合格 | 4 | 優れている |
| B | 合格 | 3 | やや優れている |
| C | 合格 | 2 | 標準的なレベルである |
| D | 合格 | 1 | 最低限の基準を満たしている |
| F | 不合格 | 0 | 合格と認められない |

■GPAの計算式

$$GPA = (\text{単位数} \times GP) \text{の和} \div \text{履修単位数}$$

※科目数ではないのでご注意ください

例)

| 科目名 | 単位数 | 評価 | GP | ポイント数 |
|--------------|-----|----|----|-------------------|
| ビジネス英語 | 2 | S | 5 | $2 \times 5 = 10$ |
| パソコンの活用と情報倫理 | 2 | B | 3 | $2 \times 3 = 6$ |
| スポーツ実践 | 1 | A | 4 | $1 \times 4 = 4$ |
| 心理学I | 2 | F | 0 | $2 \times 0 = 0$ |
| 経済学I | 2 | C | 2 | $2 \times 2 = 4$ |
| 合計 | 9単位 | | | 24 |

$$GPA = 24 \div 9 = 2.66 \text{ (小数第3位切捨て)}$$

Q2 GPAが低いとどのようなデメリットがありますか。

A2 1年次のGPAが1.50未満の場合は2年に進級できません。また、入学時からの通算GPAが1.50未満だと、卒業単位数を満たしていても卒業できません。そのため、GPAが2.0未満の学生は学修相談の対象になります。

また、GPAは奨学金や卒業表彰の成績評価基準となります。

Q3 学生が履修中止届を持ってきました。

A3 計画的に履修したつもりでも、ついたくさん履修するケースもありえます。また、何度か授業を受けてみてから、履修するか否か判断することもあるかもしれません。そのために履修中止という制度を設けました。履修中止届は所定の方法により手続きをお願いします。

Q4 再試験・追試験はどのようになりますか。

A4 必修科目や本学が対象としている資格の必修科目が不合格になった場合のみ、1年に1度後学期終了後に進級時再試験・卒業時再試験が実施されます。ただし、再試験で頑張っ合格となる場合でも、C～Dの評価しかつきません。

別途定めた科目を除き、1年に1度後学期終了後に進級時追試験・卒業時追試験が実施されます。この場合には、A～Fの範囲で評価されます。

Q5 再履修した場合の扱いは...

A5 1年次に不合格となった科目を2年次に再履修して合格した場合には、新しい評価に置き換えられます。この場合は、1年次のF評価はGPAに含まれません。なお、1年次にあった科目がカリキュラム変更などで2年次になくなっている場合は、対応科目を設けて再履修を可能にします。

Q6 評価で差をつけるためにはどのようにすればよいですか。

A6 次のような方法が考えられます。

〔例〕

試験において5題出題するうち、3題を基本的な課題、2題を応用的な課題とする。基本的な課題については6～8題程度を事前に公開し、そのうち3題出題することとしてもよい。

Q7 学生から成績について問い合わせがありました。

A7 学生からの問い合わせには、評価の具体的な裏づけ（小テストの点数の積み上げなど）をもってご説明ください。

Q8 学生から授業の進め方と成績について改善して欲しいと意見がでました。

A8 学生の意向をよく聞き、改善したほうがよいと判断できる場合は対応してください。その際、対応した内容を科目主務者にご連絡ください。

Q9 出席点はどのように考えたらよいですか。

A9 本学では出席することで単純に得点を得られる仕組みにはしないものと考えています。そのため出席点ではなく「授業への取り組み」と表現しています。欠席が3分の1を超える場合は評価に値しない（不合格となる）条件とお考えください。

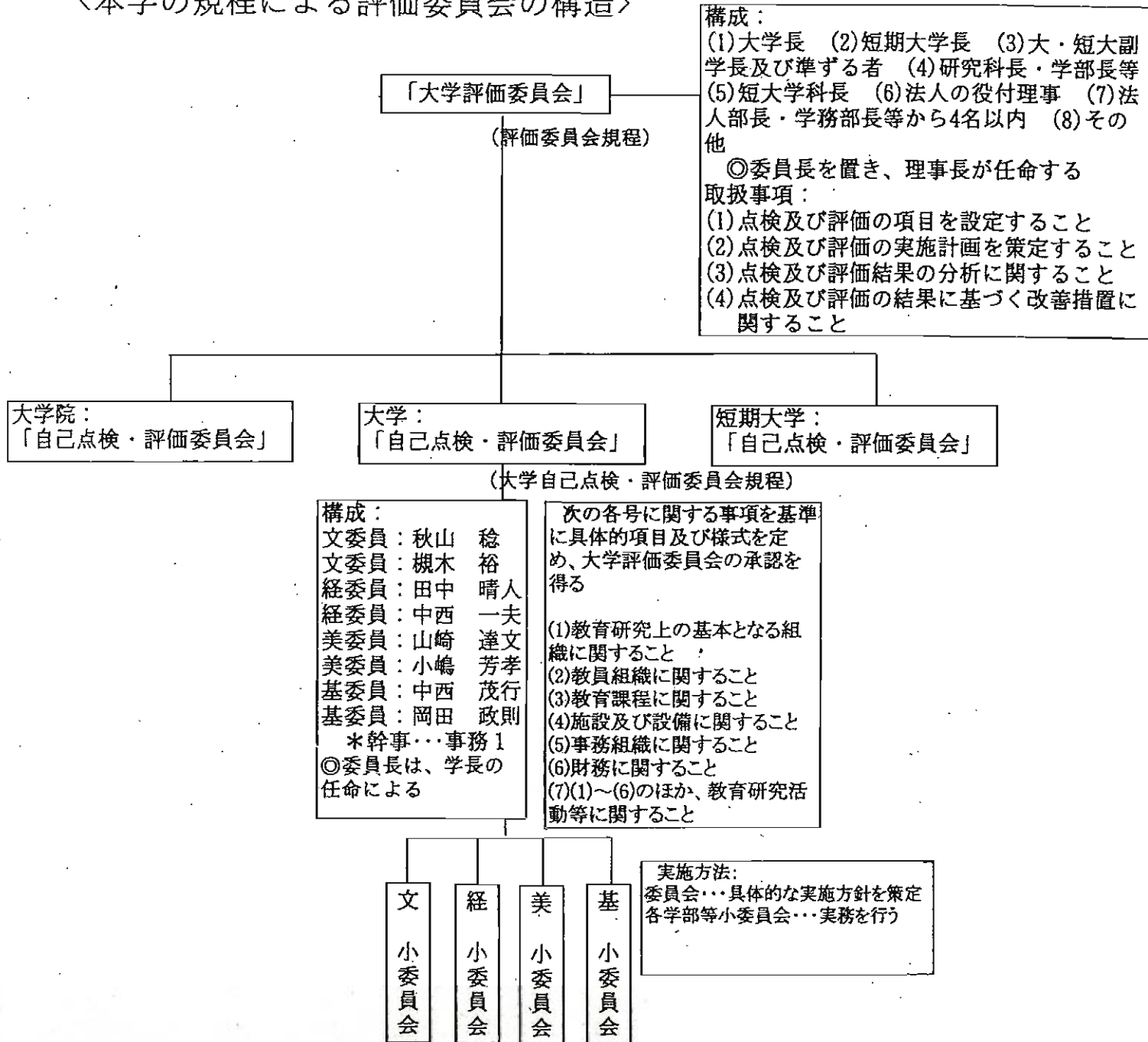
Q10 基礎的能力の不足から学習成果があがらない学生がいます。

A10 お手数ですが、中間試験などの結果の悪い学生については、できるかぎり補習レポートなどを実施していただき、指導をお願いします。指導の効果があがった場合、加点していただいても結構です。

Q11 成績評価を実施した結果、あまり差がつきませんでした。

A11 科目主務者を通じて、学長、学科長とご相談ください。

〈本学の規程による評価委員会の構造〉



金沢学院短期大学

第三者評価のための委員会

委員長 岡島 厚

委員 吉田 寛治

委員 山岸 政雄

委員 二階堂 修

委員 教務部長

事務担当 教務部

F D 部会

委員長 岡島 厚

委員 河内久美子

委員 國田千恵子

委員 小林 淳一

委員 相良多喜子

委員 川尻 博男

以上

(平成 18 年 10 月 1 日より)

基準協会が行う第三者評価

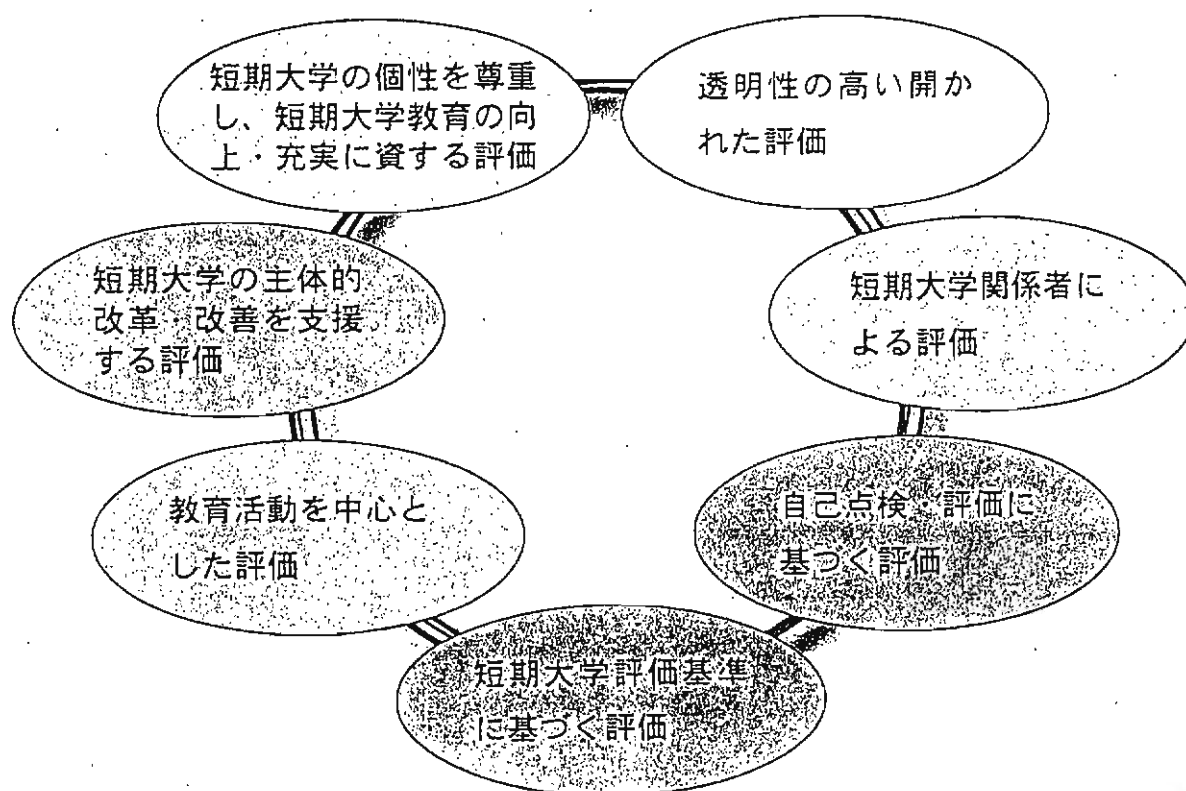
■ 評価の目的

短期大学教育の継続的な質を保証します。

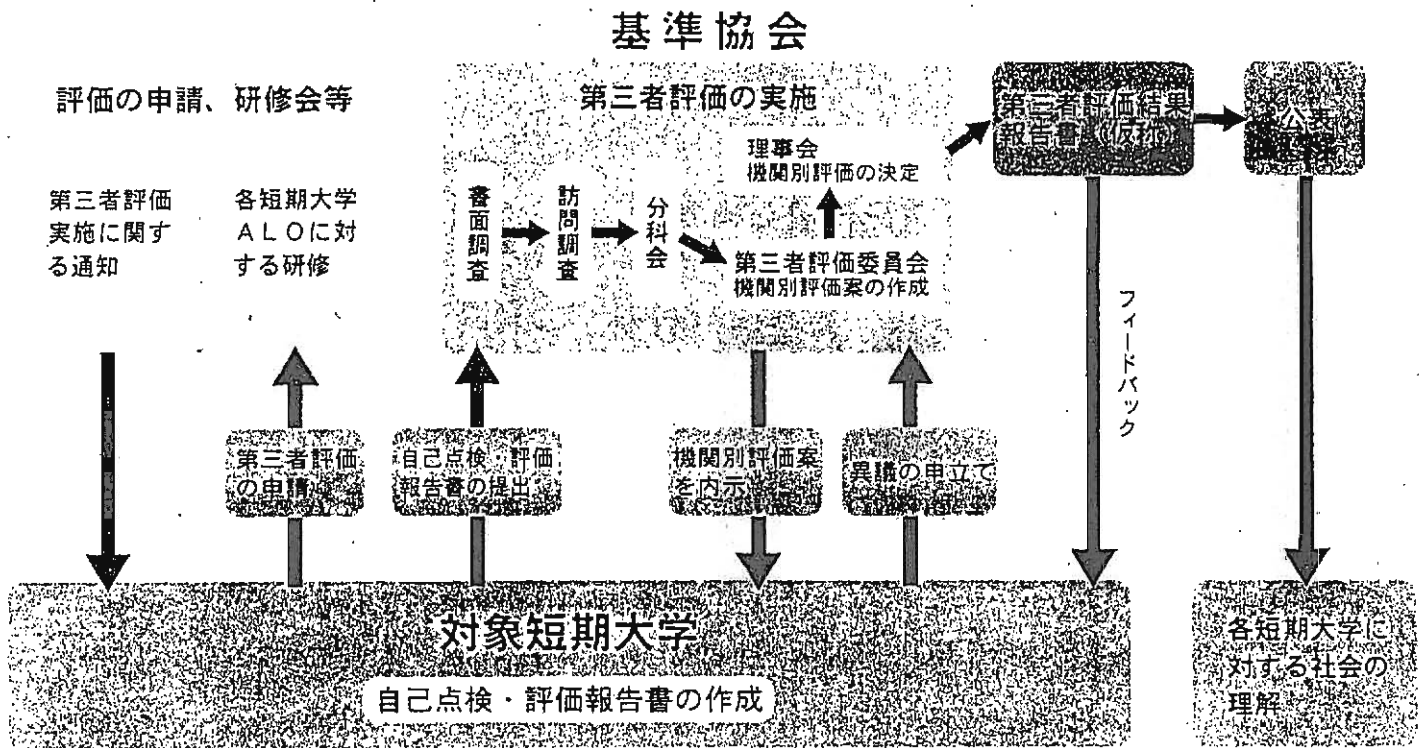
対話を軸とした評価の実施、評価結果のフィードバックにより、短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に役立てます。

短期大学の教育研究活動等の状況について、評価の結果を公表することにより、広く社会の理解と支持が得られるよう支援・促進していきます。

■ 評価の基本的な方針

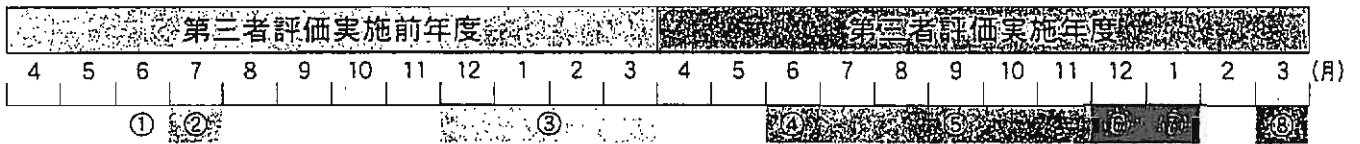


第三者評価の流れ



※ ALO とは、Accreditation Liaison Officer のことで、基準協会ではこれを「第三者評価連絡調整責任者」と訳しています。第三者評価を受けるにあたって、評価チームや基準協会等との継続的な「連絡」、及び学内における「調整」を担当するべく選任された短期大学の教員のことです。

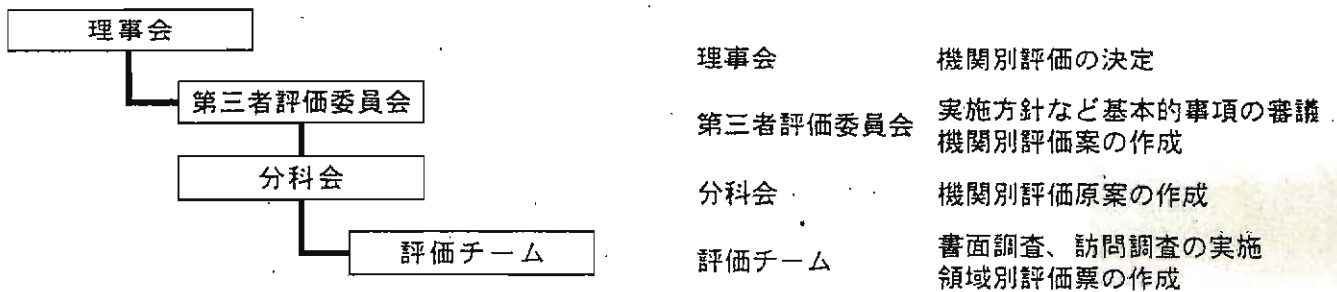
スケジュール



- ① 第三者評価実施に関する通知
- ② 評価の申請及び受付
- ③ 各短期大学 ALO に対する研修の実施
- ④ 自己点検・評価報告書の提出
- ⑤ 第三者評価の実施
- ⑥ 機関別評価案を内示
- ⑦ 異議申立ての手續
- ⑧ 機関別評価の決定

※なお、具体的なスケジュール等については、第三者評価実施に関する通知でご確認ください。

実施体制



■ 短期大学評価基準の構造

- 評価基準は、評価領域、評価項目、評価の観点という三層構造になっており、高等教育機関として短期大学が有すべき水準について設定しています。
- 短期大学の教育活動等の状況を多角的に評価するため、評価領域は10の領域で構成しています。
- 各領域には、設定した意義・背景を説明する「趣旨」を記載するとともに、各短期大学が短期大学として有すべき水準を充たしているかどうかという視点で、それぞれ複数の評価項目を設定し、この項目を理解し分析するため、評価の観点を示しています。

■ 評価領域の構成

- I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
目的の明確性、適合性 / 目的の短期大学構成員への周知、社会への公表
- II. 教育の内容
教育課程 / 授業形態 / 授業内容 / 教育方法 / 教員、教育支援者等の資質向上を図るための取組み
- III. 教育の実施体制
教員の配置 / 教員の採用及び昇任等 / 教育支援者の配置 /
教育研究組織・教育課程に対応した施設・設備の整備 / 図書等資料の整備
- IV. 教育目標の達成度と教育の効果
成績評価 / 単位認定 / 卒業認定 / 卒業後評価
- V. 学生支援
入学に関する支援 / 履修指導、学習支援 / 学生生活・就職等に関する支援 / 多様な学生に対する支援
- VI. 研究
教育目的を達成するための研究活動 / 条件の整備
- VII. 社会的活動
社会活動への取組み / 国際交流・協力
- VIII. 管理運営
管理運営体制及び事務組織 / 人事管理
- IX. 財務
財務運営の適切性 / 財務体質の健全性 / 教育研究組織・教育課程に対応した施設・設備の管理
- X. 改革・改善
向上・充実を図る体制 / 相互評価等への取組み

短期大学評価基準

—評価領域、評価項目—

| 評価領域 | 評価項目 |
|----------------------------|--|
| * 当該短期大学の特色等 | |
| I 建学の精神・教育理念、 教育目的・教育目標 | 1 建学の精神・教育理念が確立していること 2 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること 3 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること |
| II 教育の内容 | 1 教育課程が体系的に編成されていること 2 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること 3 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること 4 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること |
| III 教育の実施体制 | 1 教員組織等が整備されていること 2 教育環境が整備・活用されていること 3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること |
| IV 教育目標の達成度と 教育の効果 | 1 教育目標の達成への努力がみられること 2 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること |
| V 学生支援 | 1 入学に関する支援が行われていること 2 学習支援が組織的に行われていること 3 学生生活支援体制が整備されていること 4 進路支援が行われていること 5 多様な学生に対する特別な支援が行われていること (留学生・社会人・障害者・長期履修生等) |
| VI 研究 | 1 教員の研究活動が展開されていること 2 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること |
| VII 社会的活動 | 1 社会的活動への取組みが推進されていること 2 学生の社会的活動を促進していること 3 国際交流・協力への取組みの努力がみられること |
| VIII 管理運営 | 1 理事会等学校法人の管理運営体制が確立していること 【公立短期大学の場合】大学全体の管理運営システムについて 2 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること 3 事務組織が整備されていること 4 人事管理が適切に行われていること |
| IX 財務 | 1 財務運営が適切に行われていること 【公立短期大学の場合】財務運営について 2 財務体質が健全であること 【公立短期大学の場合】財務体質について 3 短期大学に必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われていること |
| X 改革・改善 | 1 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること 2 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること 3 相互評価(独自に行う外部評価を含む)への取組みに努力していること |
| ** 将来計画の策定 | |

「短期大学評価基準」による
評価の観点、判定のめやす等の一例

＜評価領域Ⅲ 教育の実施体制＞

（評価項目1）

教員組織等が整備されていること

＜評価の観点＞

- (1) 設置する学科・専攻は、短期大学設置基準（以下「設置基準」という。）の教員数の規定（教授数を含む）を充足しているか。
- (2) 教員は学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しているか。
- (3) 教員の採用、昇任はその選考基準等が整備され適切に行われているか。
- (4) 教員の年齢構成はバランスが取れているか。
- (5) 教員は、(a) 授業担当、(b) 研究活動、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に意欲的か。
- (6) 助手、補助職員等が確保され、教育活動等に機能しているか。
- (7) 教育実施にあたる責任体制は確保されているか。

＜判定のめやす＞

教員組織等が整備されているかどうかを評価の観点について把握し、短期大学としての水準を概ね満たしていれば「合」とする。ただし専任教員（講師以上）について、短期大学設置基準の教員数の規定を下回っている場合は、特別の事情がない限り「否」とする。

＜評価の考え方＞

この評価項目は、当該評価校および設置する学科等の教員組織等が質・量ともに充分であるか、また教員等が活発に教育活動を行っているかどうかを問うものです。教育課程や在籍の学生数に応じて教員組織が概ね整備されていれば「合」として下さい。なお専任教員（講師以上）については、短期大学設置基準に規定する定員数に応じた教員数を下回っており、特別な事情等がない場合は、この評価項目は「否」として下さい。

＜今後の向上・充実に向けての指摘事項等＞

- * この評価項目の評価の観点で示されている事項について、当該評価校の今後の向上・充実に寄与するための意見があれば、助言して下さい。
- * 特に専任教員が、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導及び(d) その他教育研究上の業務（委員会活動等）（近年はこれらに地域貢献等の社会的活動を加える傾向になっています）について、それぞれの短期大学の教育目標とのかかわりの中で、教員としての役割と責務を果しているかについても留意し、次回の第三者評価では、この「短期大学教員としての役割と責務」が評価の重要なテーマになることを指摘して下さい。